

## 日本の歴史地震と宗教の歴史（その2 近世）

田 久 昌次郎

— The History of damaging Earthquakes and Religion in Japan (Part. 2) :  
the Early Modern Period. —

Shojiro TAKYU

2011年3月、東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）は東北地方太平洋沿岸に甚だしい震害とそれに伴う津波被害をもたらした。また、福島県は東京電力福島第一原子力発電所のシビアアクシデントによる放射能被害に苛まれている。

筆者は震災直後から、福島県南相馬市小高区の津波被害と神社の成り立ちについて調査を進めているが、その発端は、小高区の津波被害が区内総面積91.95km<sup>2</sup>の11.4%におよび、津波遡上高が最大6mに達した（南相馬市調べ）にも係わらず、域内の神社30箇所のうち津波被害を受けた神社は一箇所である事実を知ったからである。

神社あるいは宗教の成り立ちを理解することは、防災・減災の観点から、あるいは災害伝承の観点から、貴重な智恵と情報を提供するのではないかと考えている。そこで、日本で発生した主な歴史地震と宗教の歴史、さらには南東北太平洋岸地域の歴史（主に陸奥相馬氏に関わる事跡）を3回に分けて俯瞰する。本号では西暦1618（元和4）年～1868（慶応4）年の250年間、江戸時代の初頭から終盤までを近世として収載している。

なお、本稿は、今後の研究の基礎的資料作成が目的であることを付記する。また、載録した歴史地震については、便宜上、通し番号を付けるとともにマグニチュード8.0以上が想定されたものはゴシックにて表記した。引用資料等は次号（その3 近代～現代）で紹介する。

西暦	主な出来事	寺社の歴史	奥羽・陸奥相馬氏に係る出来事	
1618	<ul style="list-style-type: none"><li>・紅蓮山東照社正遷宮（江戸城内）：1618（元和4）年「徳川実紀」</li><li>・石清水八幡宮（京都府八幡市）造営：1618（元和4）年「石清水文書」</li><li>・神田神社社殿竣工：1618（元和4）年</li><li>・楠本神社、現在地（兵庫県明石市）に遷座：1618（元和4）年</li><li>・尾張東照社（名古屋東照宮、名古屋市）創建：1619（元和5）年「張州府志」</li><li>・白山社造営：1619（元和5）年「前田文書」</li><li>・鹿島神宮、現社殿造営：1619（元和5）年</li><li>・山城愛宕社（京都市）造営：1620（元和6）年「公卿補任」</li><li>・熊野坐神社（熊野本宮大社、和歌山県田辺市）造営：1620（元和6）年</li><li>・香椎宮（福岡市）造営：1623（元和8）年</li><li>・近江日吉社（滋賀県大津市）境内、東照社創建：1623（元和9）年</li><li>・藤堂高虎、邸内（上野）に東照宮建立：1623（元和9）年</li><li>・早慶：1626（寛永3）年「武江年表」</li><li>・富士山噴火：1627（寛永4）年</li><li>・林羅山、都府より忍岡の土地下賜：1630（寛永7）年</li><li>・越前で濃風雨、洪水：1630（寛永7.5.16）年</li><li>・2代秀忠没：1632（寛永9）年</li><li>・上野芝園に先聖殿造営：1632（寛永9）年「徳川実紀」</li><li>・浅間山噴火：1632（寛永9.3.13）年</li><li>・前年より薪炭流行：1632（寛永9）年</li><li>●相模で地震M7.0：1633（寛永10.1.21）年「徳川実紀」</li><li>・先聖廟にて尊神復興：1633（寛永10）年「徳川実紀」</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・紅蓮山東照社正遷宮（江戸城内）：1618（元和4）年「徳川実紀」</li><li>・石清水八幡宮（京都府八幡市）造営：1618（元和4）年「石清水文書」</li><li>・神田神社社殿竣工：1618（元和4）年</li><li>・楠本神社、現在地（兵庫県明石市）に遷座：1618（元和4）年</li><li>・尾張東照社（名古屋東照宮、名古屋市）創建：1619（元和5）年「張州府志」</li><li>・白山社造営：1619（元和5）年「前田文書」</li><li>・鹿島神宮、現社殿造営：1619（元和5）年</li><li>・山城愛宕社（京都市）造営：1620（元和6）年「公卿補任」</li><li>・熊野坐神社（熊野本宮大社、和歌山県田辺市）造営：1620（元和6）年</li><li>・香椎宮（福岡市）造営：1623（元和8）年</li><li>・近江日吉社（滋賀県大津市）境内、東照社創建：1623（元和9）年</li><li>・藤堂高虎、邸内（上野）に東照宮建立：1623（元和9）年</li><li>・早慶：1626（寛永3）年「武江年表」</li><li>・富士山噴火：1627（寛永4）年</li><li>・林羅山、都府より忍岡の土地下賜：1630（寛永7）年</li><li>・越前で濃風雨、洪水：1630（寛永7.5.16）年</li><li>・2代秀忠没：1632（寛永9）年</li><li>・上野芝園に先聖殿造営：1632（寛永9）年「徳川実紀」</li><li>・浅間山噴火：1632（寛永9.3.13）年</li><li>・前年より薪炭流行：1632（寛永9）年</li><li>●相模で地震M7.0：1633（寛永10.1.21）年「徳川実紀」</li><li>・先聖廟にて尊神復興：1633（寛永10）年「徳川実紀」</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・千相院（南相馬市原町区深野、17代利胤母菩提寺）：1618（元和4）年</li><li>・牛頭天王（南相馬市原町区泉）：1619（元和5）年</li><li>・道政使節支倉常長一行、仙台帰着：1620（元和6）年</li><li>17代 ・内藤長政、平藩主：1622（元和8）年</li><li>・出羽麻上義修改易（17代利胤、受取在番を務める）：1622（元和8）年</li><li>・相馬中村城下で火災、城下の過半が焼焼：1622（元和8）年</li><li>・愛宕堂（相馬市中村）勧請、小高より移転：1622（元和8）年</li><li>・鶴城一揆：1622（元和8）年</li><li>・17代利胤、二条城在番を命じられる：1623（元和9）年</li><li>・泉龍寺（南相馬市原町区北新田）、牛越（原町区）より移転、のちの新普寺：1623（元和9）年</li><li>○元和年間</li><li>・大安寺（南相馬市鹿島区岡和田）、牛頭天王（浪江町楠渡）再興別当万藏院、再興別当万藏院、千手院（南相馬市小高区南堀尾）のちの金姓寺、三昧院（相馬市中村）馬場野（相馬市）より移転</li><li>・京都古別神社、現在地（福島県東白川郡）に遷座：1624（寛永元）年</li><li>・17代利胤没、16代義胤系の後見となる（中村城に移る）</li><li>・地蔵堂（南相馬市小高区行津）再興：1625（寛永2）年</li><li>・加藤嘉明、会津入封：1627（寛永4）年</li><li>18代 ・大塚大権現（相馬市新田）創建：1627（寛永4）年</li><li>・三島大明神（南相馬市原町区院井）修復：1628（寛永5）年</li><li>・18代義胤、2代藩主となる：1629（寛永6）年</li><li>・諏訪神社（相馬市黒木）修造：1630（寛永7）年</li><li>・山神社（南相馬市小高区川原）再建：1630（寛永7）年</li><li>・如台藩相馬藩境の中居家相論決着：1631（寛永8）年</li><li>・八幡神社（相馬市坪田）造替：1631（寛永8）年</li><li>・円心寺（相馬市中村）小谷（南相馬市小高区）より移転：1632（寛永9）年</li><li>・小川江筋（いわき市）着工：1633（寛永10）年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・千相院（南相馬市原町区深野、17代利胤母菩提寺）：1618（元和4）年</li><li>・牛頭天王（南相馬市原町区泉）：1619（元和5）年</li><li>・道政使節支倉常長一行、仙台帰着：1620（元和6）年</li><li>17代 ・内藤長政、平藩主：1622（元和8）年</li><li>・出羽麻上義修改易（17代利胤、受取在番を務める）：1622（元和8）年</li><li>・相馬中村城下で火災、城下の過半が焼焼：1622（元和8）年</li><li>・愛宕堂（相馬市中村）勧請、小高より移転：1622（元和8）年</li><li>・鶴城一揆：1622（元和8）年</li><li>・17代利胤、二条城在番を命じられる：1623（元和9）年</li><li>・泉龍寺（南相馬市原町区北新田）、牛越（原町区）より移転、のちの新普寺：1623（元和9）年</li><li>○元和年間</li><li>・大安寺（南相馬市鹿島区岡和田）、牛頭天王（浪江町楠渡）再興別当万藏院、再興別当万藏院、千手院（南相馬市小高区南堀尾）のちの金姓寺、三昧院（相馬市中村）馬場野（相馬市）より移転</li><li>・京都古別神社、現在地（福島県東白川郡）に遷座：1624（寛永元）年</li><li>・17代利胤没、16代義胤系の後見となる（中村城に移る）</li><li>・地蔵堂（南相馬市小高区行津）再興：1625（寛永2）年</li><li>・加藤嘉明、会津入封：1627（寛永4）年</li><li>18代 ・大塚大権現（相馬市新田）創建：1627（寛永4）年</li><li>・三島大明神（南相馬市原町区院井）修復：1628（寛永5）年</li><li>・18代義胤、2代藩主となる：1629（寛永6）年</li><li>・諏訪神社（相馬市黒木）修造：1630（寛永7）年</li><li>・山神社（南相馬市小高区川原）再建：1630（寛永7）年</li><li>・如台藩相馬藩境の中居家相論決着：1631（寛永8）年</li><li>・八幡神社（相馬市坪田）造替：1631（寛永8）年</li><li>・円心寺（相馬市中村）小谷（南相馬市小高区）より移転：1632（寛永9）年</li><li>・小川江筋（いわき市）着工：1633（寛永10）年</li></ul>

・ 根津、近江で駿風雨、水害：1633（寛永10.8.10）年 ・ 江戸慶西の丸より出火：1634（寛永11）年 ・ 郡府、寺請制度：1635（寛永12）年 ・ 京都で洪水：1635（寛永12.5.20）年 ・ 伊豆、遠江で駿風雨：1635（寛永12.6.13）年 ・ 美作で干ばつ：1636（寛永13）年 ・ 島原の乱：1637（寛永14）～1638（寛永15）年 ・ 阿蘇山噴火：1637（寛永14.8.11）年 ・ 諸国暴風雨により幕府参勤の派遣を決定：1637（寛永14）年 ・ 江戸で大暴風：1638（寛永15.1.1）年 ・ 「伊勢参り」大流行：1638（寛永15）年「続史愚抄」 ・ 畿内～西日本で牛疫相発生、家畜牛の大量死：1638（寛永15）～1641（寛永18）年 ・ 江戸城御台所より出火：1639（寛永16）年 ・ 姫路御ヶ岳噴火：1640（寛永17.6.13）年 ・ 巳午の風譚（宿務・松本で風譚）：1641（寛永18）年 ・ 江戸で大火（神町の大火）：1641（寛永18.1.29）年 ・ 寛永の大飢饉：1642（寛永19）～1643（寛永20）年 ・ 三宅島噴火：1642（寛永19.3.1）年 ・ 松島噴火：1642（寛永19.3.7）年 ・ 明、滅亡：1644年 ・ 浅間山噴火：1644（正保元.1.13）年 ・ 「神祇正統」（徳川義直編）：1646（正保3）年	・ 石清水八幡宮社殿造営：1634年（寛永11）年 ・ 静岡浅間神社（静岡市）造営：1634年（寛永11）年 ・ 上野国賀前神社（群馬県富岡市）社殿造営：1635（寛永12）年 ・ 日光東照社本殿など造替（現存）：1636（寛永13）年 ・ 「徳川実紀」 ・ 仁科神明宮本殿造営（大町市）：1636（寛永13）年 ・ 白山宮社殿再興：1636（寛永13）年 ・ 近江、多賀社（滋賀県犬上郡）再建：1637（寛永14）年 ・ 生田神社（神戸市）社殿再建：1637（寛永14）年 ・ 多賀社本殿以下の大造営：1638（寛永15）年 ・ 西本願寺、享寧（のち孝林、龍谷大学の初め）創設：1639（寛永16）年 ・ 肥前、諏訪神社現在地に遷座（長崎市）：1641（寛永18）年 ・ 延暦寺根本中堂再建：1642（寛永19）年 ・ 南宮神社（岐阜県不破郡）再建：1642（寛永19）年「美濃明細記」 ・ 住吉明神（東京御島）を奉祀：1644（寛永21）年 ・ 日御碕（島根県出雲市）神社造営：1644（寛永21）年 ・ 「日御碕神社文書」 ・ 東寺五重塔再建：1644（寛永21）年 ・ 香椿宮（福岡市）再建（1637年罹災）：1645（正保2）年 ・ 「黒田新徳家譜」 ・ 日光東照社、日光東照宮となる：1645（正保2）年「徳川禁令考」 ・ 八坂神社末社姪子社（京都市）社殿修造：1646（正保3）年「八坂神社文書」 ・ 京都、赤山明神拜殿建立：1646（正保3）年「続史愚抄」 ・ 出雲大社造営：1646（正保3）年	・ 18代義胤、川越城在番を命ぜられる：1634（寛永11）年 ・ 会津藩、キリシタン、宣教師を処刑：1635（寛永12）年「会津四家合考」 ・ 16代義胤没、1635（寛永12）年 ・ 伊達政宗没：1636（寛永13）年 ・ 相馬太田神社（南相馬市原町区中太田）造替：1636（寛永13）年 ・ 相馬藩領内、大風雨で田畑損亡：1637（寛永14.6.13）年 ・ 仙台藩、イエズス会宣教師捕縛：1639（寛永16）年「伊達貞山治家記録」 ・ 幕府、仙台藩と奥州山間に潜伏キリシタンの捜査を命ず：1642（寛永19）年「徳川実紀」 ・ 寛永の大飢饉（会津で逃散者2万人以上） ・ 蔵王菊田岳噴火：1642（寛永19.7.8）年 ・ 18代義胤、二本松城在番を命ぜられる：1643（寛永20）年 ・ 会津藩加藤家参勤：1643（寛永20）年 ・ 保科正之、会津藩主：1643（寛永20）年 ・ 二本松城下より出火：1643（寛永20）年 ・ 妙見社（相馬市中村）竣工：1643（寛永20）年 ○寛永年間（南相馬市原町区南新田）再興、東楽院（相馬市中村）東田村（浪江町斐世藩）より移転、如徳院（相馬市中村）再興もと小野（相馬市）に存す、真徳寺（南相馬市鹿島区北鷹形）、山神祠（南相馬市鹿島区上柳窪）、山神社（南相馬市鹿島区米田）、積雲寺（相馬市巨瀬）もと馬場野（相馬市）に存す、神明宮（相馬市日下石）、蓮華寺（南相馬市鹿島区小島田）のちの龍沢寺（鹿島区大内）、常林寺（相馬市相崎） ・ 佛立寺（相馬市中村）開山：1644（正保元）年 ・ 18代義胤、三孝城在番（松下長綱品心）を命ぜられる：1645（正保2）年 ・ 山台崩、5-6.7：1646年、仙台藩では大正親王の崩下の石などがあり、石垣でも石垣が崩れる（『伊達家系図』）。 ・ 熊野神社（相馬市中野、熊野堂城跡）造営：1646（正保3）年 ・ 田中親立堂（相馬市小泉）建立、のちの献喜寺：1646（正保3）年 ・ 真福寺（相馬市中村）のちの高滝寺：1647（正保4）年
--	---	---

1650	●相模で地震M7.0：1648（慶安元.4.22）年#81 ●安芸、伊予で地震M7.0：1649（慶安2.2.5）年#82 ●武蔵、下野で地震M7.0：1649（慶安2.6.21）年#83 ・肥前、水天宮現在地に遷座（久留米市）：1646（正保3）年 ・吉田神社（京都市）本殿造営：1648（慶安元）年 ・穴八幡宮（東京都）本社造営：1648（慶安元）年 ・浅草寺五重塔建立：1648（慶安元）年「武江年表」 ・浅草寺本堂、浅草神社社殿造営：1649（慶安2）年 ・大原野社（京都市）社殿造営：1649（慶安2）年 ・長崎諏訪神社、現在地（長崎市）に遷座：1651（慶安4）年 ・御所焼亡：1653（永2.6.23）年 ・伊豆三島神社（静岡県三島市）造営：1654（承応3）年「徳川実紀」 ・八坂神社本殿再建：1654（承応3）年「続史巖抄」 ・明暦の大火（世界三大火の一つ）、被害社寺300余、焼死者10万7千余「徳川実紀」 ・江戸西本願寺（築地）、東本願寺（浅草）移転：1657（明暦3）年「徳川実紀」 ・回向院無縁寺（両国）の初め（万人塚）：1657（明暦3）年 ・水戸丸間、「本朝実記」（のちの「大日本史」）編纂開始：1657（明暦3）年 ・京都、江戸の幕家追善、寺社敷地調査：1657（明暦3）年「徳川実紀」 ・浅間山大噴火：1657（明暦3.10.20）年 ●南会津M6.75-7.0・1659（万治2.2.30）年#84 ・日枝神社、現在地（東京都千代田区）に遷座：1659（万治2）年 ・浅間山噴火：1659（万治2.6.20）年 ・幕府、新寺建立を禁止：1659（万治2）年 ・江戸城本丸、火災後再建：1659（万治2）年 ●千幕代宗家、真千幕と称する	・相馬藩三奉藩の嫁を決着：1648（慶安元）年 ・18代浅胤、大坂城加番を命ぜられる：1649（慶安2）年 ・鹿島神社（南相馬市原町区鹿島）造替：1649（慶安2）年 ・18代浅胤没：1651（慶安4）年 ・光善寺（相馬市中村）創建、もと淨法寺（相馬市柏崎）：1652（慶安5）年 ・19代忠胤（久留里城主土屋利直二男）、相馬藩相續：1652（承応元）年 ・東照寺創建（相馬市中村）：1653（承応2）年 ・会津藩「神社志」「風土記」編纂：1654（承応3）年「家世実紀」 ・相馬藩、米沢藩との境相論勝訴：1654（承応3）年 ・長徳寺阿弥陀堂（浪江町寺内？）建立：1655（承応3）年 ・天王寺阿弥陀堂（南相馬市小高区小屋木）建立：1655（明暦元）年 ・19代忠胤、不忌院（千日堂）用地を下す（相馬市黒木）：1655（明暦元）年 ・同慶寺各殿、位牌堂（南相馬市小高区小高）現堂宇落成：1655（明暦元）年 ・仲瀬寺（双葉町寺沢）造替：1656（明暦2）年 ・長松寺（のち涌雲寺、相馬市西山）伽藍竣工：1656（明暦2）年 ・19代忠胤、検地実施（石高13万8030石）：1656（明暦2）年 ・明暦の大火にて、相馬藩松田屋敷焼損：1657（明暦3）年 ・牛越釈迦堂（南相馬市原町区牛越）建立、別当泉福寺、のちの新田観音堂：1657（明暦3）年 ・無量寺（南相馬市原町区大田）：1658（明暦4）年 ・万蔵院（南相馬市原町区大原）：1658（明暦4）年 ○明暦年間 宝泉寺（相馬市小泉）、滝泉寺（相馬市岩子）、光福寺（相馬市原町区正源寺）（相馬市大野）、正源寺（南相馬市原町区牛島）のちの東光院、正源寺（浪江町浅原）修復：1786（天明6）年焼失、好山院（南相馬市原町区牛越）、黒木山地蔵院（相馬市黒木）修復 のちの万徳寺（相馬市中村）、稲附大法院（浪江町小野田）再興、金蔵院（相馬市中野）高竜寺・真福寺・大竜寺を合併 ・砂見阿（南相馬市原町区江井）再建：1658（万治元）年 ・白山権現（相馬市山上）別当万蔵院：1658（万治元）年 ・相馬藩麻布屋敷（千屋敷）完成：1659（万治2）年 ・19代忠胤、帝徳問詰・譜代並：1659（万治2）年 ・正善寺（相馬市新田）：1659（万治2）年
------	---	---

・大坂城に落雷：1660（万治5.6.18）年 ・豊・建田：1661年 ・「お願参り」流行：1661（万治4）年 ・京都二条城から出火、御所等焼失：1661（寛文元.1.15）年 ・長崎で天然痘流行：1662（寛文2.1月）年 ●寛文江若狭地震M7.25-7.6：1662（寛文2.5.1）年#85 ●外所地震（日向）M7.25-7.75：1662（寛文2.9.20）年「日向纂記」#86 ・大坂城大守閣、常闇により焼失：1665（寛文5.1.2）年 ・豊前、不受不取地頭を全国冒濫：1665（寛文5）年「徳川実紀」 ●越後高田で地震M6.75：1666（寛文5.12.27）年「殿中日記」#87 ・出雲富田の殿下町、洪水で水没：1666（寛文6.8.4）年 ・江戸で火火：1668（寛文8.2.1）年 ・豊前、足利学校再建：1668（寛文8）年「徳川実紀」 ・西日本で洪水、福井・中津で大火：1669（寛文9）年 ・「本朝通鑑」完成：1670（寛文10）年 ・東海道、関東で洪水：1671（寛文11）年	・高良社社殿（久留米市、現存）造営：1660（万治3）年 ・三峯神社社殿（埼玉県秩父市、現存）造営：1661（寛文元）年 ・地震により方広寺大仏倒壊：1661（寛文2.3月）年「続史愚抄」 ・西宮神社（兵庫県）本殿造営：1663（寛文3）年 ・亀戸天神社（東京都）創祀：1663（寛文3）年 ・大神神社拝殿造営：1664（寛文4）年 ・徳島県海部郡大岩「慶長地震津波碑」建立：1664（寛文4）年 ・水戸藩、淫祠3688社を破却：1665（寛文5）年「統源遺事」 ・涉成園（京都市）に学寮設立（大谷大学の初め）：1665（寛文5）年 ・出雲大社造営：1667（寛文7）年「徳川実紀」 ・多武峯社（談山神社、奈良県桜井市）造営：1667（寛文7）年「徳川実紀」 ・大國魂神社（府中市）社殿再建：1667（寛文7）年 ・伊豆山権現（熱海市）社殿修造：1667（寛文7）年 ・武蔵国氷川神社（さいたま市）造営：1667（寛文7）年 ・東大寺二月堂再興：1669（寛文9）年「東大寺諸伽藍略観」 ・春日社造営：1671（寛文11）年「続史愚抄」	・伊達綱宗（仙台湾3代目）隠居事件：1660（万治3）年 ・光円寺（相馬市塚部）：1661（寛文元）年 ・阿弥陀如来（南相馬市小高区南嶋原）别当千手院：1662（寛文2）年 ・新山権現（双葉町新山）：1662（寛文2）年 ・19代忠胤、行方郡・標葉郡・宇多郡6万石朱印状：1664（寛文4）年 ・小川江筋（いわき市）竣工：1665（寛文5）年 ・会津藩、淫祠を破却：1666（寛文6）年「会津神社誌」 ・中村壹吉堂（1622年、小高より勧請）再建：1666（寛文6）年 ・「奥相茶話記」編集開始：1667（寛文7）年 ・江戸大火で相馬藩松田屋敷類焼：1668（寛文8）年 ・19代忠胤、元和3年騒動加担者に新田を給わり家名再興：1668（寛文8）年 ●仙田M7.2：1668年 仙田藩本陣門から東郷藩までの長さ32間余の範囲で、年間（約150m）が焼れ落ちる（伊達前家記録） 8.28（寛文8.7.21）#88 ・相馬藩で百姓一揆、代官切腹：1668（寛文8）年 ・相馬領内、暴風雨（中村〜小高で松本4千本倒壊）：1668（寛文8）年 ・観音堂（南相馬市鹿島区角川原）别当正学院：1668（寛文8）年 ・普門寺（のち安養寺、南相馬市鹿島区小池）観音堂造替：1669（寛文9）年 ・松前で蝦夷録起、相馬家臣派遣：1669（寛文9）年 ・相馬藩で新田開墾（南相馬市小高区浦原）：1669（寛文9）年 ・地藏堂（南相馬市小高区大井）：1669（寛文9）年 ・千倉観音（相馬市中村）遷宮：1670（寛文10）年 ・千倉観音（南相馬市鹿島区山下）：1670（寛文10）年 ・相馬中村城天守閣、落雷で焼失：1670（寛文10）年 ・19代忠胤、伝奏師走役：1671（寛文11）年 ・相馬中村城大車御藏で鉄砲薬火付騒動：1671（寛文11）年 ・伊達藩勅（一國藩、伊達宗勝卿家新絶）：1671（寛文11）年 ・雷神社（南相馬市鹿島区角川原）别当砂宝院：1671（寛文11）年 ・19代忠胤、譜代並：1672（寛文12）年 ・「会津神社志」完成：1672（寛文12）年
---	---	---

○寛文年間	・相馬朝綱墓村（浪江町）漁夫7名、四倉神の大風で漂流、長崎に移送：1673（寛文13）年
	○寛文年間
○享保年間	・墓前堂（浪江町唐戸）別称穴墓前、のちに太平寺に移す
	・19代忠胤没：1673（延宝元）年
○天明・天保年間	・20代貞胤、相馬領相続：1673（延宝元）年
	・大高寺（いわき市勿来）再建：1675（延宝3）年
○文政・天保・安政・嘉永・弘化・文久・明治	・自任院（南相馬市鹿島区小島田）のちに絶院：1676（延宝4）年
	●鹿中W. 9・1677年4. 13 津波あり、三浦半島の固有地震、八戸に震災、一時間に津波が来て多数被災約400、余船が多かった。1968年十勝沖地震に似ている「大風は古代伝記」
○明治・大正・昭和	・相馬中村城津崎出火、兵具奉行死傷、以後津崎蔵を愛宕山に移す：1677（延宝5. 4. 10）年
	●岩城親王、1678年（延宝6）年、東北地方の広範囲で被害
○大正・昭和	・20代貞胤、相馬清胤・高胤親子（17代利胤弟・直系）に切腹命ず（「隠之蔵」）：1679（延宝7）年
	・奥州福島領御城米、江戸へ回送：1679（延宝7）年
○昭和	・皇徳太子堂（浪江町室原）別当観音寺：1679（延宝7）年
	・20代貞胤没：1679（延宝7）年
○平成	・21代昌胤、相馬領相続：1679（延宝7）年
	・奥羽地方凶作：1680（延宝8）年
○令和	・21代昌胤、領内に大歉：1680（延宝8）年
	・21代昌胤、領内で穀生禁断：1680（延宝8）年
○令和	・西光寺念仏堂にて大福祿鬼会開催：1680（延宝8）年
	・増上寺で内藤忠勝、水井尚長喧嘩刃傷（忠勝は昌胤祖母弟内藤忠政の嫡子、忠勝切腹：1680（延宝8）年）
○令和	・相馬中村妙皇社内に若神宮遷宮：1680（延宝8）年
	・相馬領内大洪水：1680（延宝8. 8. 14）年
○令和	・虚空藏堂（浪江町室原）：1680（延宝8）年
	・寿延寺（相馬市小泉）開山、来田（浪江町幾世権）から仏像移転：1680（延宝8）年
○令和	・「泰納坂野人囃言（いわき市平）縁起」：1681（延宝9）年
	○延宝年間
○令和	・観音堂（相馬市牛河内）
	・相馬領内、鼠害虫災生のため祈禱：1681（天和元）年
○令和	・観音堂（相馬市新沼）もと尾班（相馬市）に存す：1681（天和元）年
	・田沼寺（相馬市中村）再興：1681（天和元）年
○令和	・鹽竈神社（宮城県）帆手祭の初め：1682（天和2）年
	・21代昌胤、越後高田坂手番を命ぜられる：1682（天和2）年

○寛文年間	・鬼子母神信仰流行：1677（延宝5）年
	・氏殿権現（名和神社、鳥取県西伯郡）創建：1677（延宝5）年
○享保年間	・朝鮮龍頭山に金刀毘羅神社（龍頭山神社）創祀：1678（延宝6）年
	・日光山正遷宮：1679（延宝7）年
○天明・天保年間	・諸国で暴風雨：1678（延宝6）年
	・水戸で大風雨：1679（延宝7. 7. 22）年
○文政・天保・安政・嘉永・弘化・文久・明治	・5代将軍頼元：1680（延宝8）年
	・江戸で風雨洪水：1680（延宝8. 8. 6）年
○昭和	・水戸で大火：1681（延宝9）年
	・京都大火、甚焼焼失：1673（寛文13. 5. 8）年
○大正・昭和	・暴風雨により淀川、大和川が氾濫：1674（延宝2. 6. 14）年
	・前橋：1675（延宝3）年
○平成	・京都で疫病流行：1676（延宝4. 4月）年
	・東海道路地で洪水：1676（延宝4. 7. 4）年

<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸で大火（お江火事）：1682（天和12.29）年</li> <li>・駒込大円寺から出家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日光で地震M6.5-7.0：1683（天和3.5.24）年</li> <li>●日光で地震M6.5-7.0：1683（天和3.5.24）年</li> <li>●日光で地震M7.0：1683（天和3.9.1）年#93</li> <li>・貞享暦：1684（貞享元）年</li> <li>・伊豆大島で噴火：1684（貞享元.2.16）年</li> <li>・日光で火災：1684（貞享元.12.20）年</li> <li>●安芸、伊予で地震M7.0-7.4：1686（貞享2.12.10）年#94</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祐徳稲荷神社の初め（佐賀県鹿島市）：1687（貞享4）年</li> <li>・国王前神社現社建造當（千葉県長生郡）：1687（貞享4）年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大光院前神社（茨城県大光町、酒列磯前神社（ひたちなか市））再興：1689（元禄2）年</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観音堂（相馬市小泉）建立、別当慶徳寺：1682（天和2）年</li> <li>・妙見宮（南相馬市小高区小高）造替：1682（天和2）年</li> <li>・寛徳寺（南相馬市小高区小高）再興、東医寺境内：1685（貞享2）年</li> <li>・阿弥陀堂（浪江町酒井）再興、東医寺境内：1685（貞享2）年</li> <li>・稲荷寺（南相馬市小高区大田和）再興：1685（貞享2）年</li> <li>・岩木山噴火：1686（貞享3）年</li> <li>・山口稲荷神社（相馬市尾浜）別当松川寺：1687（貞享4）年</li> <li>・牛頭天王（南相馬市小高区大田和）再興、別当良藏院：1687（貞享4）年</li> <li>・妙見社前天神宮遷宮（仮殿）：1688（貞享5）年</li> <li>・妙見神像再興：1688（貞享5）年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・觀音堂（相馬市小泉）建立、別当慶徳寺：1682（天和2）年</li> <li>・妙見宮（南相馬市小高区小高）造替：1682（天和2）年</li> <li>・寛徳寺（南相馬市小高区小高）再興、東医寺境内：1685（貞享2）年</li> <li>・阿弥陀堂（浪江町酒井）再興、東医寺境内：1685（貞享2）年</li> <li>・稲荷寺（南相馬市小高区大田和）再興：1685（貞享2）年</li> <li>・岩木山噴火：1686（貞享3）年</li> <li>・山口稲荷神社（相馬市尾浜）別当松川寺：1687（貞享4）年</li> <li>・牛頭天王（南相馬市小高区大田和）再興、別当良藏院：1687（貞享4）年</li> <li>・妙見社前天神宮遷宮（仮殿）：1688（貞享5）年</li> <li>・妙見神像再興：1688（貞享5）年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金谷神社（南相馬市小高区金谷）再興、医王院（南相馬市小高区小泉）再興、威徳寺（南相馬市原町区大湊）金剛院（浪江町棚塩）、抱蒼神の社（南相馬市鹿島区南楠木）、不動尊（南相馬市原町区小泉）再建、別当正徳寺</li> <li>・妙見大明神（浪江町菱巻橋）：1688（元禄元）年</li> <li>・21代昌胤、綱吉實話となる：1689（元禄2）年</li> <li>・相馬領内の發生を述す：1689（元禄2）年</li> <li>・21代昌胤、綱吉實話となる、同年8月病氣養生のため罷免：1689（元禄2）年</li> <li>・相馬岩城境の小長谷領分（大湊町・富岡町）落着：1689（元禄2）年</li> <li>・葉山宮（相馬市磯部）別当新明院：1689（元禄2）年</li> <li>・根元宮（南相馬市原町区小浜）：1689（元禄2）年</li> <li>・新善光寺（南相馬市原町区南新田？）再興：1689（元禄2）年</li> <li>・稲荷明神、赤木明神、蘇々姫明神（相馬市立谷）再興：1690（元禄3）年</li> <li>・愛宕権現十王堂（浪江町立野）別当徳藏院：1690（元禄3）年</li> <li>・佛立寺（相馬市中村）、布施不受派のため改宗：1691（元禄4）年</li> <li>・牛頭天王（相馬市小泉）を今田（相馬市）より移転遷宮：1691（元禄4）年</li> <li>・妙見社前天神宮（相馬市中村）遷宮：1691（元禄4）年</li> <li>・妙見社（相馬市中村）遷宮：1691（元禄4）年</li> <li>・21代昌胤、領内に大赦：1692（元禄5）年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日光山正遷宮：1690（元禄3）年</li> <li>・日蓮宗布施不受派禁制：1691（元禄4）年</li> <li>・東大寺大仏殿開眼供養：1692（元禄5）年</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"><li>・湊川神社の初め (神戸) : 1692 (元禄5) 年</li><li>・北畠八幡宮 (三重県一志郡) 創祀 : 1692(元禄5) 年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・巴陵院を普福寺 (相馬市馬場町) に改める : 1692 (元禄5) 年</li><li>・富士神社観音堂 (南相馬市鹿島区柳瀬) 天明年間に破壊され、のち再建されず 別当玉東院 : 1692 (元禄5) 年</li><li>・阿弥陀堂 (相馬市立谷) 再興 : 1692 (元禄5) 年</li><li>・山王社 (相馬市相崎) 修築 : 1693 (元禄6) 年</li><li>・飯縄大権現 (相馬市百瀬) 1861 (文久元) 年破壊 : 1693 (元禄6) 年</li><li>・小高国玉神社御神体、妙見社内国玉宮 (相馬市中村) に勧請 : 1694 (元禄7年)</li><li>・長命寺、八幡宮別当となり相馬市坪田に移す : 1694 (元禄7) 年</li><li>・砂見阿 (相馬市中村) : 1694 (元禄7) 年</li><li>・山王社 (相馬市赤木) もとは立谷 (相馬市) にあり 別当専行院 : 1694 (元禄7) 年</li><li>・相馬藩麻下下屋敷額焼 : 1695 (元禄8.2.8) 年</li></ul>
2			<ul style="list-style-type: none"><li>・東北地方一帯余震、以後10年以上凶作(元禄の飢饉) : 1695 (元禄8) 年</li><li>・涼ヶ岡八幡宮 (相馬市坪田) 再興運営 : 1695 (元禄8) 年</li><li>・相馬藩、飢饉により二万八千石損亡 : 1695 (元禄8) 年</li><li>・22代波風、佐竹家より相馬家養子となる : 1696 (元禄9) 年</li><li>・十一面観音 (浪江町立野) 別当金光寺 (浪江町室原) : 1695 (元禄8) 年</li><li>・21代昌胤、検知重施 : 1696 (元禄9) 年</li><li>・会津松平家 (初代正容) : 1696 (元禄9) 年</li></ul>
1			<ul style="list-style-type: none"><li>●石巻M6.5 : 1696年 右巻河口に津波、300艘をさい、溺死者多数、地震記 11.25 (元禄9.11.1) #98 48は其確認</li><li>・21代昌胤、藩財政悪化のため、元禄10年より3ヶ年「知行の十分の一」を預かる : 1696 (元禄9) 年</li><li>・千手観音 (南相馬市原町区江井) 再興 別当大仙院 : 1696 (元禄9) 年</li><li>・松尾明神 (相馬市小泉) 再興 : 1697 (元禄10) 年</li></ul>
代			
昌胤			<ul style="list-style-type: none"><li>・長松寺 (相馬市西山) 寺地替地 : 1698 (元禄11) 年</li><li>・相馬中村、幕府上人回國 : 1698 (元禄11) 年</li><li>・21代昌胤、財政悪化のため100石以上四分の一預かる : 1698 (元禄11) 年</li><li>・羽黒大権現 (相馬市立谷) 再興 : 1698 (元禄11) 年</li><li>・八幡宮 (南相馬市鹿島区山下) 再興 別当八聖院 : 1698 (元禄11) 年</li><li>・長松寺 (相馬市西山)、八幡寺と改める : 1699 (元禄12) 年</li><li>・相馬藩 三春藩邸相論勝利 : 1699 (元禄12) 年</li><li>・夕顔観音 (相馬市尾伝) : 1699 (元禄12) 年</li></ul>
			<ul style="list-style-type: none"><li>●北米・カスケード山脈 元禄12年12月8日～9日にみけて、連日津波が日本列島を襲撃し、死者を数え 18.7:1700(元禄12. 12. 8) 年</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・浄土真宗本願寺派、学林再興 (現・龍谷大学) : 1695 (元禄8) 年</li></ul>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・岩木山神社 (弘前市) 社殿造営 : 1694 (元禄7) 年</li></ul>	
97	●底代で地震M7.0 : 1694 (元禄7.5.27) 年	
	熾王で噴火 : 1694 (元禄7.7.10) 年	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・京都・伊勢で洪水 : 1695 (元禄8.6月) 年</li><li>・元禄の飢饉 : 1695 (元禄8) 年</li></ul>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・津輕藩で伝染病流行 : 1696 (元禄8.1月) 年</li></ul>	
99	●相模で地震M6.5 : 1697 (元禄10.10.12) 年	<ul style="list-style-type: none"><li>・米沢城内に聖堂竣工、孔子像安置 : 1697 (元禄10) 年</li><li>・大地震により、鶴岡八幡宮大鳥居倒壊 : 1697 (元禄10.10.12) 年</li><li>・護国寺観音堂 (東京都) 建立 : 1697 (元禄10) 年</li><li>・寺額焼232ヶ所</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・長岡藩で洪水、溺死者多数 : 1698 (元禄11) 年</li><li>・江戸大火 (御願火事、寛永寺など被災) : 1698 (元禄11.9.6) 年</li></ul>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・肥後・豊後で洪水 : 1699 (元禄12) 年</li></ul>	
1700	●老成対馬で地震M7.0 : 1700 (元禄13.2.26) 年	<ul style="list-style-type: none"><li>・善歌神社 (千葉県香取市) 現社殿造営 : 1700 (元禄13) 年</li><li>・奈良龍松院 (奈良市) に観音堂建立 : 1700 (元禄13) 年</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・水戸元開設 : 1700 (元禄13) 年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・奈良東大寺大仏殿建立 : 1700 (元禄13) 年</li></ul>



・浅野長矩、江戸城で刃傷：1701（元禄14）年 ・因幡・伯耆・伊勢・三河・關東で津水：1701（元禄14）年 ・元禄参勤 ・赤穂浪士討ち入り：1706（元禄15）年 ・承德寺火災（永戸様火事）：1703（元禄16.11.29）年	○この頃、過去帳が広く作成され、檀家制度が確立する ・本所三十三間堂建立（東京深川）1872（明治5）年解体；1701（元禄14）年 ・鎌倉建長寺（鎌倉市）奉財天堂建立：1701（元禄14）年 ・酒列磯前神社（ひたちなか市）、現状に整備：1702（元禄15）年	・21代昌胤、幕府に隠居願提出：1701（元禄14）年 ・21代昌胤、浪江町北幾世橋に隠居（幾世橋御殿、のち大聖寺）：1701（元禄14）年 ・22代波胤、100石以上四分の一預かる：1701（元禄14）年 ・木守明神、勝手大明神、国造明神（浪江町幾世橋）のち羽根（浪江町）に合祀：1701（元禄14）年 ・22代波胤、伝奏御走役：1702（元禄15）年 ・小泉高也観音堂を幾世橋御殿内に移す：1702（元禄15）年 ・中村城跡手橋架け替え：1702（元禄15）年 ・相馬藩麻布下屋敷御殿：1703（元禄16）年
●二津間東地震M7.9-8.2：1703（元禄16.11.23）年#101（武江年表） ●二津間後地震M6.5：1703（元禄16.11.23）年#102 ・江戸大火（永戸様火事）：1703（元禄16.11.29）年	・大地震により、誕生寺（千葉県安房郡）海中に没す：1703（元禄16）年 ・湯島天神、聖堂、神田明神など類焼	・隠山庵に補陀堂観音、七体観音再興：1703（元禄16）年 ・浪分神社（仙台市）創建：1703（元禄16）年 ・中村城に稲荷宮勧請：1703（元禄16）年 ・正西寺（浪江町大槻）：1703（元禄16）年 ・福寿院（相馬市新田）のちに摂政院（相馬市穂田）宝前寺（相馬市馬場野）と合院：1703（元禄16）年 ・観音堂（浪江町立野）別当南岳院（請戸）：1704（元禄17）年 ○元禄年間 水神社（南相馬市鹿島区南島形）、医光寺（南相馬市鹿島区北右田）再興、俗称山端薬師、正観音（南相馬市鹿島区江重）再興、別当観音寺、井越観音（相馬市尾浜）再興、別当観音寺、のちに浪江町幾世橋に移転、観世音石像（相馬市浦庭）別当長徳寺、塩金大明神、八幡社（南相馬市原町区北果）美賀殿（相馬市中村）御争所と称す、大聖院（南相馬市磯部）、将軍地蔵堂（浪江町柳屋）、熊野三所権現（浪江町立野）別当大善院、東光庵（南相馬市小高区下浦）、牛頭天王（南相馬市小高区川房）、龍大明神（南相馬市小高区福岡）別当行音寺、羽山権現・行房寺（南相馬市小高区福岡）修復 別当行音寺
・浅間山噴火：1704（宝永元.1.1）年 ●宝永代地震M7.0：1704（宝永元.4.24）年 #103 ・江戸で津水：1704（宝永元.6.28）年 ・幕府、諸国津水、江戸地蔵により藩寺院など4次に所焼：1704（宝永元.7月）年	・神田明神、湯島聖堂再建：1704（宝永元）年「徳川夷記」 ・東大寺大仏殿上樑式（130年ぶり）：1705（宝永2）年 ・新勝寺（千葉県成田市）、現在地に移転：1705（宝永2）年 ・根津権現社（東京都）竣工：1706（宝永3）年「徳川夷記」 ・申婆浅間神社（山梨県笛吹市）本殿（現存）再建：1706（宝永3）年 ・善光寺本堂再建（棟札写）：1707（宝永4）年 ・富士山噴火により富士浅間神社などに被害：1707（宝永4.11.23）年 ・大火により寺社100余焼ける	・鹽竈神社（宮城県）、現社殿造営：1704（宝永元）年 ・相馬藩、三春岩城焼相論：1704（宝永元）年 ・八幡大権現（南相馬市原町区萱浜）修復 別当成就院：1704（宝永元）年 ・牛頭天王、愛宕神社（浪江町室原）別当観音寺：1704（宝永元）年 ・抱嶺神（相馬市日下石）：1704（宝永元）年 ・常念仏堂建立（浪江町幾世橋）：1705（宝永2）年 ・延命地蔵（浪江町立野）再興：1705（宝永2）年 ・安養寺（南相馬市鹿島区小池）火災：1706（宝永3.11.27）年 ・栗山権現（南相馬市小高区浦尻）再興 室原（浪江町）より遷座：1706（宝永3）年
●宝永地震（東海道、伊勢湾、紀伊半島で被害最大）M8.6：1707（宝永4.10.4）年#104 ・江戸で地震：1707（宝永4.11.29）年 ・富士山噴火（宝永噴火）：1707（宝永4.12.16）年 京都大火：1706（宝永5.8.9）年「宝永五年表上記」		・興仁寺（浪江町幾世橋）創建：1708（宝永5）年

<ul style="list-style-type: none"><li>・大阪で火災：1708（宝永5.12.29）年</li><li>・6代将軍家宣：1709（宝永6）年</li><li>・三宅崎火災：1709（宝永6.3.10）年</li><li>・内蔵御近所なり、遷幸：1709（宝永6）年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・東大寺大仏殿落慶供養：1709（宝永6）年「大仏再建記」</li><li>・探津住吉社（大阪市）現社毀壞上：1709（宝永6）年</li><li>・富士浅間神社修造：1709（宝永6）年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・阿弥陀如来（南相馬市原町区馬場）再興 別当修行院：1708（宝永5）年</li><li>・22代役所、財政権により100石以上十分の一、小身十分の一、三カ年間預かる：1708（宝永5）年</li><li>・22代駿胤、幕府に隠居願提出：1709（宝永6）年</li><li>・23代尊胤、相馬藩相続：1709（宝永6）年</li><li>・23代尊胤、100石以上十分の一、100石以下十分の一、五ヶ年間預かる：1709（宝永6）年</li><li>・水社大明神（南相馬市小高区小屋木）再興 別当行寛院：1709（宝永6）年</li><li>・鹿島大明神（南相馬市原町区馬場）再興 別当宝前寺：1709（宝永6）年</li><li>・相馬藩、巡検使受入：1710（宝永7）年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●平で地震M6.5：1710年 城などに被害</li><li>9.15（宝永7.8.22）#105</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>●白誓で地震M6.5：1710（宝永7.閏8.11）年</li><li>#106</li><li>・江戸で火災、永代藩嗣後：1710（宝永7.12.19）年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・池上本門寺（東京都）伽藍炎上：1710（宝永7）年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・八幡宮（浪江町大槻）再興：1710（宝永7）年</li><li>・薬山宮（相馬市馬場野）再興：1710（宝永7）年</li><li>・薬師如来、常念寺（南相馬市小高区浦田）再興 别当宝藏院：1710（宝永7）年</li><li>○宝永年間</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・天王寺（浪江町請戸）再興、雷神社（浪江町棚城）</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・江戸大火：1711（宝永8.4.4）年</li><li>・西国、東海道で暴風雨：1711（宝永8）年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・石上神宮（天理市）本殿造営：1711（宝永8）年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・歡喜寺（相馬市小泉）伝法灌頂執行：1711（正徳元）年</li><li>・22代波胤没：1711（正徳元）年</li><li>・老中大久保忠増書状、相馬藩に届く（巡検使言上、諸国風俗衰え四民困窮、其生を遂しむべし）：1711（正徳元）年</li><li>・薬師如来（南相馬市小高区角部内）：1711（正徳元）年</li><li>・観音寺（浪江町宝原）再興：1711（正徳元）年</li><li>・23代尊胤、領内入敷：1712（正徳2）年</li><li>・相馬中村、一法上人回國：1712（正徳2）年</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・金藏寺（相馬市中村）開山：1712（正徳2）年</li><li>・文殊院、観音寺（南相馬市鹿島区浮田）再興：1712（正徳2）年</li><li>・23代尊胤、家中よりの借知半分返却：1713（正徳3）年</li><li>・東医寺薬師堂（浪江町酒井）建立：1713（正徳3）年</li><li>・出羽奥州巡検使、相馬藩巡検：1713（正徳3）年</li><li>・相馬側殿村住民、漂流のため長崎奉行所まで受取：1713（正徳3）年</li><li>・滝蔵院（南相馬市鹿島区小池）のちの金蔵院：1713（正徳3）年</li><li>・牛頭天王（南相馬市小高区浦尻）再興 别当千寛院：1713（正徳3）年</li><li>・静庵寺、快学院（南相馬市鹿島区小山田）応永年間（1394～1427）に阿弥陀堂建立：1713（正徳3）年</li><li>・相馬藩、利根川・荒川普請手合い：1714（正徳4）年</li><li>・相馬藩、物産高につき小身に御救金支給：1714（正徳4）年</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>●地震で地震M6.25：1714（正徳4.3.15）年#108</li><li>●大垣、名古屋で地震M6.5-7.0：1715（正徳4.12.28）年#109</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・日光山で東照宮（家康）百回忌法要：1715（正徳5）年</li><li>・霧島神社（鹿児島県霧島市）社殿重建（現存）：1715（正徳5）年「霧島神宮沿革誌」</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・牛頭天王（南相馬市鹿島区角川原）别当正学院：1714（正徳4）年</li><li>・八幡宮（南相馬市鹿島区浮田）再興 别当八正院：1714（正徳4）年</li><li>・薬山寺（伊達市大石）堂宇観音石仏建立：1715（正徳5）年</li><li>・大聖寺（浪江町幾世橋）文殊開帳：1715（正徳5）年</li></ul>	

・ 諏訪大明神（浪江町高瀬）別当南岳山：1715（正徳5）年	・ 諏訪大明神（浪江町高瀬）別当南岳山：1715（正徳5）年
・ 23代尊鳳、100石以上六分の一、100石以下十分の一、五ヶ年間預かる：1716（正徳6）年	・ 23代尊鳳、100石以上六分の一、100石以下十分の一、五ヶ年間預かる：1716（正徳6）年
○正徳年間	○正徳年間
富士権現（南相馬市鹿島区北右田）別当専明院、専明院（南相馬市鹿島区北右田）再興、山神社・八電社（南相馬市小高区角部内）再興、栗山神祠（南相馬市小高区浦尻）至原（浪江町）より遷座	富士権現（南相馬市鹿島区北右田）別当専明院、専明院（南相馬市鹿島区北右田）再興、山神社・八電社（南相馬市小高区角部内）再興、栗山神祠（南相馬市小高区浦尻）至原（浪江町）より遷座
・ 相馬藩、八丁堀屋敷焼失：1717（享保2.1.22）年	・ 相馬藩、八丁堀屋敷焼失：1717（享保2.1.22）年
・ 相馬藩、48年振りの大地震： 1717（享保2.4.3）年「萬栄日記」	・ 相馬藩、48年振りの大地震： 1717（享保2.4.3）年「萬栄日記」
・ 相馬藩、麻布屋敷破損：1717（享保2.8.16）年	・ 相馬藩、麻布屋敷破損：1717（享保2.8.16）年
・ 奥州巡検使、相馬藩巡検：1717（享保2）年	・ 奥州巡検使、相馬藩巡検：1717（享保2）年
・ 砂見社（相馬市中村）遷宮：1717（享保2）年	・ 砂見社（相馬市中村）遷宮：1717（享保2）年
・ 阿弥陀堂、延命地藏（南相馬市小高区飯崎）別当勝光院：1717（享保2）年	・ 阿弥陀堂、延命地藏（南相馬市小高区飯崎）別当勝光院：1717（享保2）年
・ 正観堂（浪江町蓬原）もと観音寺（室原）境内にあり：1717（享保2）年	・ 正観堂（浪江町蓬原）もと観音寺（室原）境内にあり：1717（享保2）年
・ 都玉神社（相馬市坪田）建立：1718（享保3）年	・ 都玉神社（相馬市坪田）建立：1718（享保3）年
・ 21代昌鳳、吉田兼歌より十八神道伝授：1718（享保3）年	・ 21代昌鳳、吉田兼歌より十八神道伝授：1718（享保3）年
・ 雷神社（浪江町幾世橋）別当運光院：1718（享保3）年	・ 雷神社（浪江町幾世橋）別当運光院：1718（享保3）年
・ 大日堂（南相馬市鹿島区山下）別当宝金坊：1718（享保3）年	・ 大日堂（南相馬市鹿島区山下）別当宝金坊：1718（享保3）年
・ 23代尊鳳、朝敵通信使来朝につき警衛仰せつかる：1719（享保4）年	・ 23代尊鳳、朝敵通信使来朝につき警衛仰せつかる：1719（享保4）年
・ 田中観音堂（相馬市小泉）再建：1719（享保4）年	・ 田中観音堂（相馬市小泉）再建：1719（享保4）年
・ 平澤洪水被害：1720（享保5）年7～8月	・ 平澤洪水被害：1720（享保5）年7～8月
・ 中村城大広間相壊：1720（享保5）年	・ 中村城大広間相壊：1720（享保5）年
・ 会津御蔵入騒動（一揆）：1720（享保5）年	・ 会津御蔵入騒動（一揆）：1720（享保5）年
・ 23代尊鳳、綱吉13回忌法要につき、梶井宮勅主役仰せつかる：1720（享保5）年	・ 23代尊鳳、綱吉13回忌法要につき、梶井宮勅主役仰せつかる：1720（享保5）年
・ 金剛寺（南相馬市小高区大井）再建：1720（享保5）年	・ 金剛寺（南相馬市小高区大井）再建：1720（享保5）年
・ 相馬藩八丁堀屋敷焼失：1721（享保6.1.8）年	・ 相馬藩八丁堀屋敷焼失：1721（享保6.1.8）年
・ 相馬藩麻布屋敷焼失：1721（享保6.2.9）年	・ 相馬藩麻布屋敷焼失：1721（享保6.2.9）年
・ 23代尊鳳、俳知成憲8ヶ年延期：1721（享保6）年	・ 23代尊鳳、俳知成憲8ヶ年延期：1721（享保6）年
・ 相馬藩、領内洪水、損耗1万2千石余：1721（享保6.7.20）年	・ 相馬藩、領内洪水、損耗1万2千石余：1721（享保6.7.20）年
・ 勘定所へ、相馬領町歩改帳提出（田畑6千34町歩、人口6万3千8名）：1721（享保6）年	・ 勘定所へ、相馬領町歩改帳提出（田畑6千34町歩、人口6万3千8名）：1721（享保6）年
・ 相馬藩麻布屋敷長屋完成：1721（享保6）年	・ 相馬藩麻布屋敷長屋完成：1721（享保6）年
・ 幕府、熊野三山火破につき寄通仰せつかる：1722（享保7）年	・ 幕府、熊野三山火破につき寄通仰せつかる：1722（享保7）年
・ 相馬藩、上米600石のうち、300石差し出す：1722（享保7）年	・ 相馬藩、上米600石のうち、300石差し出す：1722（享保7）年
・ 相馬藩麻布屋敷焼失：1723（享保8.2.16）年	・ 相馬藩麻布屋敷焼失：1723（享保8.2.16）年
・ 相馬藩麻布屋敷召上げ：1723（享保8.6月）年	・ 相馬藩麻布屋敷召上げ：1723（享保8.6月）年
・ 出羽荒瀬一揆：1723（享保8）年	・ 出羽荒瀬一揆：1723（享保8）年
・ 平澤暴風雨による洪水：1723（享保8.8月）年	・ 平澤暴風雨による洪水：1723（享保8.8月）年
・ 相馬中村、暴風雨、破壊多し：1723（享保8）年	・ 相馬中村、暴風雨、破壊多し：1723（享保8）年
・ 田中観音堂（相馬市小泉）開帳：1723（享保8）年	・ 田中観音堂（相馬市小泉）開帳：1723（享保8）年
・ 山神、観世音菩薩（飯館村八木沢）：1723（享保8）年	・ 山神、観世音菩薩（飯館村八木沢）：1723（享保8）年
・ 牛頭天王、地藏菩薩（南相馬市小高区大田和）別当良藏院、大仙院：1723（享保8）年	・ 牛頭天王、地藏菩薩（南相馬市小高区大田和）別当良藏院、大仙院：1723（享保8）年

・ 「津波代様」供養塔建立（千葉県白子町、元禄間東北地震十三回忌）：1715（正徳5）年	・ 「津波代様」供養塔建立（千葉県白子町、元禄間東北地震十三回忌）：1715（正徳5）年
・ 護持院（東京千代田区、のちに護国寺に移転）等類焼	・ 護持院（東京千代田区、のちに護国寺に移転）等類焼
・ 幕府、寺院の再建、規模の縮小を命ずる：1718（享保3）年	・ 幕府、寺院の再建、規模の縮小を命ずる：1718（享保3）年
・ 年「御陸軍寛保集成」	・ 年「御陸軍寛保集成」
・ 祐天寺（東京目黒）：1718（享保3）年	・ 祐天寺（東京目黒）：1718（享保3）年
・ 津波、三河で地震M7.0：1718（享保3.7.26）年#111	・ 津波、三河で地震M7.0：1718（享保3.7.26）年#111
・ 江戸大火：1718（享保3.12.12）年	・ 江戸大火：1718（享保3.12.12）年
・ 江戸町火消しは組織設、1720（享保5）年	・ 江戸町火消しは組織設、1720（享保5）年
・ 江戸大火：1720（享保5.3.27）年	・ 江戸大火：1720（享保5.3.27）年
・ 「大日本史」250巻、幕府に献上：1720（享保5）年	・ 「大日本史」250巻、幕府に献上：1720（享保5）年
・ キリスト教以外の諸宗洋書輸入緩和：1720（享保5）年「御 神禁御免許書取立」	・ キリスト教以外の諸宗洋書輸入緩和：1720（享保5）年「御 神禁御免許書取立」
・ 江戸で大火：1721（享保6）年	・ 江戸で大火：1721（享保6）年
・ 幕府、村里に神祠を設け、仏像建置を禁ずる：1721（享保6）年	・ 幕府、村里に神祠を設け、仏像建置を禁ずる：1721（享保6）年
・ 相馬藩麻布屋敷焼失：1721（享保6.2.9）年	・ 相馬藩麻布屋敷焼失：1721（享保6.2.9）年
・ 23代尊鳳、俳知成憲8ヶ年延期：1721（享保6）年	・ 23代尊鳳、俳知成憲8ヶ年延期：1721（享保6）年
・ 相馬藩、領内洪水、損耗1万2千石余：1721（享保6.7.20）年	・ 相馬藩、領内洪水、損耗1万2千石余：1721（享保6.7.20）年
・ 勘定所へ、相馬領町歩改帳提出（田畑6千34町歩、人口6万3千8名）：1721（享保6）年	・ 勘定所へ、相馬領町歩改帳提出（田畑6千34町歩、人口6万3千8名）：1721（享保6）年
・ 相馬藩麻布屋敷長屋完成：1721（享保6）年	・ 相馬藩麻布屋敷長屋完成：1721（享保6）年
・ 幕府、熊野三山火破につき寄通仰せつかる：1722（享保7）年	・ 幕府、熊野三山火破につき寄通仰せつかる：1722（享保7）年
・ 相馬藩、上米600石のうち、300石差し出す：1722（享保7）年	・ 相馬藩、上米600石のうち、300石差し出す：1722（享保7）年
・ 相馬藩麻布屋敷焼失：1723（享保8.2.16）年	・ 相馬藩麻布屋敷焼失：1723（享保8.2.16）年
・ 相馬藩麻布屋敷召上げ：1723（享保8.6月）年	・ 相馬藩麻布屋敷召上げ：1723（享保8.6月）年
・ 出羽荒瀬一揆：1723（享保8）年	・ 出羽荒瀬一揆：1723（享保8）年
・ 平澤暴風雨による洪水：1723（享保8.8月）年	・ 平澤暴風雨による洪水：1723（享保8.8月）年
・ 相馬中村、暴風雨、破壊多し：1723（享保8）年	・ 相馬中村、暴風雨、破壊多し：1723（享保8）年
・ 田中観音堂（相馬市小泉）開帳：1723（享保8）年	・ 田中観音堂（相馬市小泉）開帳：1723（享保8）年
・ 山神、観世音菩薩（飯館村八木沢）：1723（享保8）年	・ 山神、観世音菩薩（飯館村八木沢）：1723（享保8）年
・ 牛頭天王、地藏菩薩（南相馬市小高区大田和）別当良藏院、大仙院：1723（享保8）年	・ 牛頭天王、地藏菩薩（南相馬市小高区大田和）別当良藏院、大仙院：1723（享保8）年
・ 天瀧宮など寺社44を焼く（妙知焼付）	・ 天瀧宮など寺社44を焼く（妙知焼付）

・ 幕府、仏像三尺超は許可制：1724（享保9）年「徳川実紀」	・ 相馬藩林布奥馬形完成：1724（享保9）年
・ 常陸諏訪地震M6.0-6.5：1725（享保10.7.7）年#112	・ 熊野権現（南相馬市鹿島区山下）別当西方寺、のち横手（鹿島区）の常門寺へ合院：1724（享保9）年 ・ 阿弥陀仏（南相馬市小湊区耳谷）再興、宝積寺境内：1724（享保9）年 ・ 相馬藩、鹿島瀬川役金上納：1725（享保10）年
・ 関東で大洪水：1728（享保13.9.2）年	・ 延命院（南相馬市原町区北原）のちの吉祥寺：1725（享保10）年 ・ 相馬藩、入別改書提出（人口6万2千904名）：1726（享保11）年 ・ 相馬藩、別当常楽院：1726（享保11）年 ・ 養林寺（浪江町涌井）修復：1726（享保11）年 ・ 中村成大広間造作：1727（享保12）年
・ 相馬藩、日光東照宮遷宮：1731（享保16）年	・ 牛頭天王、初殿次栗師（南相馬市原町区大木戸）修復：1727（享保12）年 ・ 平将門800年忌法要（下総・海津寺）1728（享保13）年 ・ 相馬中村、48年振りの大洪水：1728（享保13.8.4）年 ・ 相馬中村、風水害（損耗3万1612石）：1728（享保13.9.2）年 ・ 平藩洪水被害：1728（享保13.9月）年 ・ 21代昌胤没：1728（享保13）年 ・ 愛宕社（南相馬市小湊区上根沢）修復、別称將軍地蔵 ・ 傳：1728（享保13）年 ・ 牛頭天王碑（相馬市日下石）別当長健寺：1728（享保13）年 ・ 陸奥信夫、伊達郡二郡一揆：1729（享保14）年 ・ 23代尊胤、大赦：1729（享保14）年
・ 大洗磯前神社、現在地に遷座：1730（享保15）年	● 遼前？：1730年7.9 前日のアリ神地蔵による津波被害（享保15.5.25）#114
・ 日光東照宮遷宮：1731（享保16）年	・ 相馬藩、日光廟修復につき手伝仰せつかる：1730（享保15）年 ・ 専明院（相馬市中村）文殊菩薩開帳：1730（享保15）年 ・ 徒定庵（相馬市小野）：1730（享保15）年 ・ 相馬中村城袋陣掛替え：1731（享保16）年 ・ 相馬藩松田屋敷創築：1731（享保16.4.15）年 ・ 相馬藩、日光御用金2千両受領：1731（享保16）年 ・ 23代尊胤、百石以上三分の一、小身二十分の一、当年預かる：1731（享保16）年
○この頃、橘家神道広まる	● 宮城長瀬前部M6.5：1731（享保16.9.7）年10.7（享保16.9.7）#115 死傷多数、死傷の創傷、全身では10の傷が残り、3000人の死傷が創傷した（『有徳院日記』）。白川城では石垣が崩れる。
・ 享保の飢饉、ウヰキによる：1732（享保17）～1733（享保18）年 ・ 浅間山は噴火：1733（享保18.8.20）年 ・ 西日本で疫病流行：1733（享保18）年	・ 『奥相殿鑑』：1731（享保16）年 ・ 相馬藩松田屋敷完成：1732（享保17）年 ・ 海神寺（茨城県取手市）結門公御堂修復、遷宮：1732（享保17）年 ・ 京ヶ岡八幡宮（相馬市坪田）遷宮：1733（享保18）年 ・ 興仁寺（浪江町幾世備）を同所永祥寺に移転：1733（享保18）年 ・ 聖観音（相馬市尾浜）再興 別当長福寺：1733（享保18）年 ・ 天神宮・牛頭天王（相馬市大曲）再興：1733（享保18）年 ・ 歡喜寺（相馬市小泉）伝法灌頂執行：1734（享保19）年

・水神社（南相馬市鹿島区上柳濱）：1734（享保19）年	・水神社（南相馬市鹿島区上柳濱）：1734（享保19）年
・23代幕府・大赦（総人数178名）：1734（享保19）年	・23代幕府・大赦（総人数178名）：1734（享保19）年
・相馬藩家老桑田胤重、守屋親信、不行跡により罰せられる：1734（享保19）年	・相馬藩家老桑田胤重、守屋親信、不行跡により罰せられる：1734（享保19）年
・相馬藩、幕府へ側分不作損亡届提出：1734（享保19）年	・相馬藩、幕府へ側分不作損亡届提出：1734（享保19）年
・相馬藩、昨秋側内不作のため俵約（例年の神事中止）：1735（享保20）年	・相馬藩、昨秋側内不作のため俵約（例年の神事中止）：1735（享保20）年
・相馬藩八丁堀馬鞍購入：1735（享保20.4.14）年「萬葉日録」（昭和3月14日の誤記分）	・相馬藩八丁堀馬鞍購入：1735（享保20.4.14）年「萬葉日録」（昭和3月14日の誤記分）
・相馬中村、大地震：1735（享保20.4.14）年「萬葉日録」（昭和3月14日の誤記分）	・相馬中村、大地震：1735（享保20.4.14）年「萬葉日録」（昭和3月14日の誤記分）
・宝蔵寺庭空藏（相馬市鹿島区海老）再興・開帳：1735（享保20）年	・宝蔵寺庭空藏（相馬市鹿島区海老）再興・開帳：1735（享保20）年
・七社明神（浪江町宝原）1735（享保20）年	・七社明神（浪江町宝原）1735（享保20）年
○享保年間	○享保年間
飛野社・彦右社（相馬市初野）黒木（相馬市）の勝蓋寺より移転、光行院（相馬市中村）再興のちに絶院、吉祥院（相馬市中村）再興、高德院（南相馬市小高区下浦）、山神宮（南相馬市鹿島区小山田）別当快学院、八幡神社・羽黒大権現（南相馬市鹿島区塩崎）、津明神（南相馬市原町区北原）	飛野社・彦右社（相馬市初野）黒木（相馬市）の勝蓋寺より移転、光行院（相馬市中村）再興のちに絶院、吉祥院（相馬市中村）再興、高德院（南相馬市小高区下浦）、山神宮（南相馬市鹿島区小山田）別当快学院、八幡神社・羽黒大権現（南相馬市鹿島区塩崎）、津明神（南相馬市原町区北原）
・相馬中村大町商人平左衛門、年末勝手金御用より待並に召し抱え：1736（元文元）年	・相馬中村大町商人平左衛門、年末勝手金御用より待並に召し抱え：1736（元文元）年
・内藤家、「郷村誌」71ヶ条：1736（元文元）年	・内藤家、「郷村誌」71ヶ条：1736（元文元）年
・相馬藩、御救金支給（昨年不作のため）：1737（元文2）年	・相馬藩、御救金支給（昨年不作のため）：1737（元文2）年
・長和院（相馬市本笠）再興：1737（元文2）年	・長和院（相馬市本笠）再興：1737（元文2）年
・相馬藩、大赦：1738（元文3）年	・相馬藩、大赦：1738（元文3）年
・砂見堂にて雨次の祈禱実施（7月中旬雨続く）：1738（元文3）年	・砂見堂にて雨次の祈禱実施（7月中旬雨続く）：1738（元文3）年
・幕政平藩元文一撰（百姓数万人）：1738（元文3.9.18）年	・幕政平藩元文一撰（百姓数万人）：1738（元文3.9.18）年
・牛頭天王（南相馬市原町区石神）再興：1738（元文3）年	・牛頭天王（南相馬市原町区石神）再興：1738（元文3）年
・道祖神（相馬市中村）再興：1738（元文3）年	・道祖神（相馬市中村）再興：1738（元文3）年
・諏訪神祠（相馬市中村）再興、黒木（相馬市）より移転	・諏訪神祠（相馬市中村）再興、黒木（相馬市）より移転
別当大聖院：1738（元文3）年	別当大聖院：1738（元文3）年
・相馬藩、50石以下の家中へ御救金支給：1739（元文4）年	・相馬藩、50石以下の家中へ御救金支給：1739（元文4）年
・砂見社（相馬市中村）遷宮：1739（元文4）年	・砂見社（相馬市中村）遷宮：1739（元文4）年
・砂見堂にて法要、十八神道行う：1739（元文4）年	・砂見堂にて法要、十八神道行う：1739（元文4）年
・伊達銅金華山付近に異国船現る：1739（元文4）年	・伊達銅金華山付近に異国船現る：1739（元文4）年
・国王社（相馬市坪田）屋根修復：1739（元文4）年	・国王社（相馬市坪田）屋根修復：1739（元文4）年
・砂見社（相馬市中村）総馬殿建立：1739（元文4）年	・砂見社（相馬市中村）総馬殿建立：1739（元文4）年
・相馬中村、庚申（1740年）、辛酉（1741年）は麒麟の言い伝えにより、五穀豊穡の祈禱：1740（元文5）年	・相馬中村、庚申（1740年）、辛酉（1741年）は麒麟の言い伝えにより、五穀豊穡の祈禱：1740（元文5）年
・島海山噴火：1740（元文5.5月）年	・島海山噴火：1740（元文5.5月）年
・相馬藩、28石以下の家中に御救金支給：1740（元文5）年	・相馬藩、28石以下の家中に御救金支給：1740（元文5）年
・相馬藩領内暴風、雨乞祈禱行う：1740（元文5）年	・相馬藩領内暴風、雨乞祈禱行う：1740（元文5）年
・千手観音（南相馬市小高区鳩原）再興 別当千手院：1740（元文5）年	・千手観音（南相馬市小高区鳩原）再興 別当千手院：1740（元文5）年
・新山明神、遣出霊神、富士山神（南相馬市小高区飯崎）再興：1740（元文5）年	・新山明神、遣出霊神、富士山神（南相馬市小高区飯崎）再興：1740（元文5）年
・相馬藩、百石以上に金三郎拝借し、百石以下に御救金支給：1741（元文6）年	・相馬藩、百石以上に金三郎拝借し、百石以下に御救金支給：1741（元文6）年
・相馬藩、稲の虫害にて祈禱：1741（寛保元）年	・相馬藩、稲の虫害にて祈禱：1741（寛保元）年
・京ヶ岡八幡宮（相馬市坪田）総馬殿改築：1741（寛保元）年	・京ヶ岡八幡宮（相馬市坪田）総馬殿改築：1741（寛保元）年
・稲荷神祠（相馬市成田）再興：1741（元文6）年	・稲荷神祠（相馬市成田）再興：1741（元文6）年
・塩釜明神（相馬市新田）再興：1741（元文6）年	・塩釜明神（相馬市新田）再興：1741（元文6）年
・神明宮、葉山稲荷（相馬市新田）再興 別当東正院：1741（元文6）年	・神明宮、葉山稲荷（相馬市新田）再興 別当東正院：1741（元文6）年

●日光、郡山で地震（江戸、青森でも有感）M3.14	●日光、郡山で地震（江戸、青森でも有感）M3.14
不図・1735（享保20. 閏3.14）年#116	不図・1735（享保20. 閏3.14）年#116
中国、九州で人の疫病流行：1735（享保20.9月）年	中国、九州で人の疫病流行：1735（享保20.9月）年
江戸で地震流行：1735（享保20.12月）年	江戸で地震流行：1735（享保20.12月）年
寛永寺本坊額焼	寛永寺本坊額焼
江戸大火：1737（元文2.6.3）年	江戸大火：1737（元文2.6.3）年
大普会、50年ぶりの復活：1738（元文3）年	大普会、50年ぶりの復活：1738（元文3）年
神田明神、平将門八百年忌・開帳：1739（元文4）年	神田明神、平将門八百年忌・開帳：1739（元文4）年
新普救3280年ぶりに再興：1740（元文5）年「歴史散歩」	新普救3280年ぶりに再興：1740（元文5）年「歴史散歩」
鶴川で洪水：1740（元文5. 閏7.16）年	鶴川で洪水：1740（元文5. 閏7.16）年
北海道以前江差地方に大津波（津島大島噴火による）：1741（寛保元.7.19）年	北海道以前江差地方に大津波（津島大島噴火による）：1741（寛保元.7.19）年
相模葉山川神社（神奈川県高座郡）再建（棟札）：1741（寛保元）年	相模葉山川神社（神奈川県高座郡）再建（棟札）：1741（寛保元）年

○元文年間	新田神社・道祖神・雷神・熊野社（南相馬市小高区下浦）、川口明神・塩釜神社（南相馬市小高区浦内）再興、葉山神社（南相馬市小高区浦内）至原（浪江町）より移転、田中・山神（南相馬市小高区行津）再興	相馬藩、家中奉成借込返納を申し渡す：1742（寛保2）年	
	・幸明院（相馬市小泉）聖観音開帳：1742（寛保2）年	相馬中村・大嶺：1742（寛保2.8.2）年	
2	・相馬中村城、御座の間改築棟上げ：1742（寛保2）年	・八幡宮（南相馬市鹿島区角川院）再興 別当正学院：1742（寛保2）年	
	・八幡権現（相馬市新田）別当福壽院：1742（寛保2）年	・相馬中村城、御座の間完成：1743（寛保3）年	
3	・田中親章（相馬市下町）開帳：1743（寛保3）年	・子安観音堂（相馬市日下町）常法院境内：1743（寛保3）年	
	3) 田中関天王（南相馬市原町区大嶺）再興 威徳寺境内：1743（寛保3）年	○寛政年間	
代・尊	十王堂（南相馬市原町区上沢佐）一時焼失後1853（嘉永6）年修造、八龍権現（相馬市大曲）上八龍と称す、相馬市山上）再興、勝蔵寺（相馬市中村）、五大院（相馬市中村）	・相馬中村・道行上人回国：1744（延享元）年	
	・順仁寺（浪江町幾世僧）伽藍、自火により焼失：1744（延享元）年	・妙明院（相馬市中村）文殊菩薩開帳：1744（延享元）年	
3	・23代寛胤、大赦：1744（延享4）年	・浪江八幡宮（相馬市坪田）屋梁吹き替え：1745（延享5）年	
	2) 年	○享和年間	
原	・昭光寺（相馬市日下町）再興、1746（延享3）年	正宮寺（南相馬市鹿島区寺内）再興、牛頭天王・照山院（南相馬市鹿島区北海老）再興、寿明院（南相馬市鹿島区石田）再興、山神・威神（相馬市尾花）再興、松川寺・稲荷明神（相馬市尾花）再興、宝蔵院（浪江町小野）、宝珠寺（南相馬市鹿島区柳道）再興、光徳院（南相馬市鹿島区大内）再興、平光院（相馬市町井）再興、文化館内に徳院、観音寺（相馬市麻木）再興、天行院（相馬市大内）再興、本明院（浪江町沼宿）再興、信徳寺（相馬市小高区浦内）再興、観音堂（南相馬市小高区大井）再興、三宝院（浪江町相馬市原町区信田次）再興、偏光院（南相馬市鹿島区大谷）再興、佐光院（相馬市原町区押金）再興、金剛院（南相馬市原町区小沢）再興、行寛院（南相馬市小高区小盛木）再興、大仙院（南相馬市小高区大田和）再興、稲荷明神・秋葉権現、羽山弁財天（浪江町酒井）再興、光徳院（浪江町津田）再興、万蔵院（浪江町樋渡）再興、香取大明神・大学院（浪江町末祿）再興、	・八手八明神（相馬市飯沼）別当宝蔵院：1748（寛延元）年
	・葉山神社（相馬市塚部）再興：1749（寛延2）年	・二本松藩、百姓・町人の子の出家を禁じる：1749（寛延2）年「獻例税要」	
○寛延年間	白山権現（南相馬市原町区押金）再興、松源寺（南相馬市原町区押金）再興		

●三波連史記抄：1751 (宝暦元、5、2)年	前日のちり神地区の津波被害
・23代尊胤、幕府へ御旗孫頼順(23代忍胤)提出：1751(宝暦元)年	
・十王寺(相馬市鬼木)再興：1751(宝暦元)年	
・海蔵寺(浪江町諱戸)再興 文政年間には太平寺と合院： 1751(宝暦元)年	
・無量寺(浪江町井手)再興：1751(宝暦元)年	
・徳風堂(徳島の子)、諸公縁起願説にられる：1752(宝暦2)年	
・鹿野、金比羅大権現、田神、白山権現(南相馬市小高区小島本)：1753(宝暦3)年	
・雪神社、汝明神(南相馬市原町区小浜) 別当顕明院： 1754(宝暦4)年	
・熊野浅間、鹿島大明神(南相馬市原町区小浜) 別当円明院：1754(宝暦4)年	
・稲荷神社(南相馬市鹿島区新篠) 蛇沢(小高区)より勧請：1754(宝暦4)年	
・雷神社(南相馬市鹿島区御山) 別当宝福院：1754(宝暦4)年	
・勝楽社(相馬市鬼木)再興：1754(宝暦4)年	
・神明の大権現、盛岡藩・仙台藩あわせて6万人以上の戦死者：1755(宝暦5)年	
・神明社(相馬市新沼)再興：1755(宝暦5)年	
・平藩主、安藤成成、藩校「施政堂」設置：1756(宝暦6)年	
・神明社(相馬市長老内)：1757(宝暦7)年	
・豊滝寺(相馬市新沼)再興 もと小泉(相馬市)にあ り：1760(宝暦10)年	
●陸奥入戸7、4：1763年 津波あり。二階半北沢の所有地蔵、11月 初めより地震あり。大地震発生。3期で御旗家認められ、死者36名。凶悪にもれる。1968年10月沖ノ鳥崎に似ている	
●青森東東方神7、3： 1763年3、11(宝暦13、1、27) #121	津波あり。宝暦ハヤ沖ノ鳥崎の最大伝説
●青森東西方神7、0： 1763年3、15(宝暦13、2、1) #122	城の隅が例は、嵐の嵐後破損
○宝暦年間	
文殊寺(相馬市中村)もと岩子(相馬市)あたりにて取相寺(相馬市唐木)に合院、山神・佛頂留(相馬市小泉)再興、光明寺(南相馬市原町区高)のちに大蓮(原町区)の寺院と合院、法蓮寺(浪江町柳渡)再興、常福院(南相馬市原町区矢刈川原)再興、懺徳寺(浪江町末線)再興 のちに観音寺(浪江町立谷)に合院	
・山神(南相馬市鹿島区下柳渡)	山神頭領など、寛永約1500年、山形及び米軍の将士に招いたとの記録あり。御旗した人達199名、正統者100余、他死者300余、死んだ所4000(「上柳藩傳史」)。後世化現象。
●新庄修験道7、25：1766 年3、8(明治3、1、28) #123	山形頭領など、寛永約1500年、山形及び米軍の将士に招いたとの記録あり。御旗した人達199名、正統者100余、他死者300余、死んだ所4000(「上柳藩傳史」)。後世化現象。

<p>1750: ●越後高田で地震W. 0・7.4 : 1751 (宝暦元. 4. 26) 年#117</p> <p>○この頃、豊川稲荷の初め</p>	<p>1750: ●越後高田で地震W. 0・7.4 : 1751 (宝暦元. 4. 26) 年#117</p> <p>●日光で地震W不明 : 1755 (宝暦5. 3. 10) 年#118</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宝暦の大嵐W : 1753 (宝暦3) ~ 1757 (宝暦7) 年</li> <li>・ 日光で地震W不明 : 1755 (宝暦5. 3. 10) 年#118</li> <li>・ 近畿で洪水 : 1756 (宝暦6. 9月) 年</li> <li>・ 常陸で洪水 : 1757 (宝暦7) 年</li> <li>・ 各地で洪水 : 1757 (宝暦7) 年</li> <li>・ 飢饉、後紛合発作 : 1757 (宝暦7. 12月) 年</li> <li>・ 宝暦事件 (関白と天皇側近の対立、竹内式部を追放し取束) : 1758 (宝暦8) 年</li> <li>・ 10代将軍家治 : 1760 (宝暦10) 年</li> <li>・ 代将軍家重役 : 1761 (宝暦11) 年</li> <li>・ 江戸大火 : 1762 (宝暦12. 2. 16) 年</li> <li>・ 奈良大火 : 1762 (宝暦12. 2. 23) 年</li> </ul> <p>●佐渡で地震W. 0 : 1762 (宝暦12. 9. 15) 年#120</p>
<p>●日光大地震で、奥院倒壊 : 1755 (宝暦5. 4. 10) 年「徳川家紀」</p> <p>・ 大圓正人幡宮 (現・鹿児島神宮、鹿児島県霧島市) 現社殿造営 : 1756 (宝暦6) 年</p> <p>・ 大風で日光東照宮破損 : 1761 (宝暦11) 年</p> <p>・ 元禄地震60周年津波石碑 (伊東市行運寺) : 1762 (宝暦12) 年</p> <p>・ 増上寺、芝神明社類焼</p> <p>・ 興福寺堂坊、東大寺戒壇院など類焼「井上町年代記」</p>	<p>●日光大地震で、奥院倒壊 : 1755 (宝暦5. 4. 10) 年「徳川家紀」</p> <p>・ 大圓正人幡宮 (現・鹿児島神宮、鹿児島県霧島市) 現社殿造営 : 1756 (宝暦6) 年</p> <p>・ 大風で日光東照宮破損 : 1761 (宝暦11) 年</p> <p>・ 元禄地震60周年津波石碑 (伊東市行運寺) : 1762 (宝暦12) 年</p> <p>・ 増上寺、芝神明社類焼</p> <p>・ 興福寺堂坊、東大寺戒壇院など類焼「井上町年代記」</p>

・謀略で早稲：1767 (明和4) 年 ・尾張、三河で洪水：1767 (明和4.7月) 年 ○英蘭、産業革命が始まる ●白向で地震M7.75：1769 (明和6.7.28) 年#124 ・朝廷、変異により七寺七社に国家安穩祈禱：1770 (明和7.閏6月) 年 ・皇天のため、京都諸寺送り火禁止：1770 (明和7.7月) 年 ・白山比咩神社 (石川県白山市) 本殿再建：1770 (明和7) 年 ●八重山地震津波M7.4：1771 (明和8.3.10) 年 #125 ・お陰参り流行 (4ヶ月で207万人)：1771 (明和8) 年「いせ参詣歴之日記」 風水害：1772 (明和9) 年 ・湯島聖徳新儀興：1772 (明和9) 年 ・江戸大火 (日里町入坂火事)：1772 (明和9.2.20) 年「徳川列伝」 田沼退次、老中となる：1772 (安永元) 年 ・疫病流行：1773 (安永2) 年 杉田玄白「解体新書」：1774 (安永3) 年 ・英蘭、独立宣言：1776年 ・大阪大火：1777 (安永6.12.19) 年「安永五年大満大火之図」 ロシア艦、通商を求めるも拒否：1778 (安永7) 年 ・本居宣長「古事記伝」上巻：1778 (安永7) 年 ・伊豆入島 (三原山) 噴火：1778 (安永7) 年 ・京都で洪水：1778 (安永7) 年 ・岐阜噴火：1779 (安永8) 年 ・各地で洪水：1779 (安永8) 年 ・関東で洪水：1780 (安永9) 年 ●酒田で地震M6.5：1780 (安永9.6.19) 年#127 ●相模、武蔵で地震M7.0：1782 (天明2.7.15) 年#128 ・印旛沼干拓：1782 (天明2) 年 ・西日本で洪水多発、飢饉始まる：1782 (天明2) 年 ・浅間山噴火：1783 (天明3.7.8) 年 天明の大飢饉：1783 (天明3) ～1788 (天明8) 年 ・松島噴火：1785 (天明5) 年 ・湯島天神門前で出火：1786 (天明6.1.22) 年 ・利根川で大洪水：1786 (天明6) 年「徳川実紀」 ・堤防決壊により印旛沼干拓中止：1788 (天明6) 年 ・11代将軍、徳川家斉：1786 (天明6) 年	・24代徳川、密に行なわれていた嬰兒殺しを禁ず：1767 (明和4) 年 ・長谷寺 (相馬市中村) もと栗津村にあり：1771 (明和8) 年 ・墓所寺 (相馬市成田) 1771 (明和8) 年 ・正法寺 (南相馬市原町区堤谷) 再興：1771 (明和8) 年 ●盛前遠中M6.8：1772年 花巻城で所々威嚇、江戸でも有感、死者12人、やぐ深い 6.3 (明和9.5.3) #126 ○明和年間 竜法寺 (相馬市程田)、八郎明神 (相馬市中野) ・23代尊胤没：1772 (安永2) 年 ・秋葉神社 (浪江町室原) 別当観音寺：1773 (安永2) 年 ・山神の社 (浪江町室原)：1773 (安永2) 年 ・栗師如来 (南相馬市小高区大田和) 再興 善性院跡 別当本誓坊：1776 (安永5) 年 ・盛徳寺 (浪江町立野) 再興 のち金光寺に合院：1783 (天明3) 年 ・竜雲寺 (浪江町立野) 金光寺に合院：1783 (天明3) 年 ・24代徳川、幕府に隠居願提出：1783 (天明3) 年 ・25代徳川、救済基金として一十河を供出：1783 (天明3) 年 ・相馬藩江戸中屋敷焼失：1784 (天明4.12月) 年 ・25代徳川、天明の大飢饉に際し幕府より5千両貸与、翌年5月 まで出仕停止：1784 (天明4.12月) 年 ・天明の大飢饉、東北藩藩の飢饉平年の1～2割以下の収穫 ・25代徳川、子どもの養育費支給開始：1786 (天明6) 年 ・延命地蔵堂 (南相馬市小高区浦尻) 再興 常念寺境内：1786 (天明6) 年
--	---



・松平定信、老中重頼（寛政の改革）：1787（天明7）年 ・各地で、打ちこわし起こる：1787（天明7）年 ・京都大火（江戸へぐり焼く）：1788（天明8.1.30）年『伊藤家文書』	・能登気多神社（石川県羽咋市）竣工（樹札）：1787（天明7）年 ・御所、相国寺、弘光寺など寺院928ヶ所、神社220ヶ所額 ・幕府、諸国朱印寺社に万民安穏祈禱：1788（天明8）年 ・幕府、伊勢神宮遷宮：1789（寛政元）年 ・幕府、出家・山伏の人別帳提出を求める：1789（寛政元）年『御触書天保集成』 ・水鏡御旗信仰が全国化：1791（寛政3）年 ・幕府、行徳で高波で死亡した者の施餓鬼会を行わせる：1791（寛政3）年 ・赤坂山王社（日枝神社）焼失 ・幕府、無僧・無本寺で無住の寺院の廢寺を命令：1794（寛政6）年『御触書天保集成』 ・幕府、富士講を禁ず：1795（寛政7）年『御触書天保集成』 ・幕府、上総・下総の日蓮宗不受不施派を禁ず：1795（寛政7）年『御触書天保集成』 ・幕府、祭礼の華美を禁ず：1798（寛政10）年 ・赤坂山王社再建：1798（寛政10）年 ・京都方広寺大仏、落雷により焼失：1798（寛政10）年 ・幕府、神事祭礼を名目とする芝居見世物興行を禁ず：1799（寛政11）年 ○寛政年間、真言宗智山派と墨山派が制度上分離する	・松平定信、老中重頼（寛政の改革）：1787（天明7）年 ・各地で、打ちこわし起こる：1787（天明7）年 ・京都大火（江戸へぐり焼く）：1788（天明8.1.30）年『伊藤家文書』
・阿波で地震M7.0：1789（寛政元.4.17）年 ●129 ・東讃令公布：1789（寛政元）年 ・寛政算字の禁：1790（寛政2）年 ・関東で大風雨：1791（寛政3）年 ●北海道後志（しりべし）で地震M7.1：1792（寛政4.4.24）年#130 ●島原地震（島原大変肥後迷惑）M6.4：1792（寛政4.5.21）年『寛政大変記』#131 ・ロシア使節 クラスマン、松平に来航：1792（寛政4）年 ・島原空襲被害、昌平殿と称す：1792（寛政4）年『徳川実記』 ●青森県西部で地震M6.9-7.1：1793（寛政5.12.28）年#132	・江戸大火：1794（寛政6.1.10）年『徳川実記』 ・安芸で大水：1796（寛政8.6月）年 ・島原空襲管理、林家から御所に移る：1797（寛政9）年『昌平志』 ・「古事記」完成：1798（寛政10）年 ・美濃で大水：1798（寛政10）年 ・徳島空襲が再建され、孔子像が遷座：1799（寛政11）年『徳川実記』 ●金沢地震M6.0：1799（寛政11.5.26）年『政経記』#134	・伊勢忌歌、愛媛地震測量：1800（寛政12）年 ・『昌平志』刊行：1800（寛政12）年 ・『昌平志』刊行：1800（寛政12）年

・25代将胤、幕府へ5千両返寄延命の願、再度出仕停止：1788（天明8）年 ・陸奥、常陸、下野の農民出稼き禁止：1788（天明8）年 ・相馬藩、最盛期の三分の一まで人口減、約3万5千人 ○天明年間 宝持寺（南相馬市鹿島区川子）のちに慈雲院（鹿島区塩崎）に合院、八幡明神（南相馬市原町区信田沢）再興、別当と学院、清浄院（南相馬市原町区矢川原）不動院（原町区下太田）に合院 ・25代将胤、備前米の常備をはじめる：1789（寛政元）年 ・光明寺（浪江町立野）光善寺境内（相馬市相崎）の末寺を移転：1789（寛政元）年 ・実相寺（南相馬市原町区高）文殊院に移す：1790（寛政2）年 ・妙見大明神（双葉町長塚）再興：1791（寛政3）年 ・24代忍胤没：1791（寛政3）年 ・25代将胤、荒地の開墾を奨励：1792（寛政4）年 ・25代将胤「衆臣家譜」編纂を行う：1792（寛政4）年 ●陸前～磐城M8.0～8.4：1793年2.17（寛政5.1.7）#133 ・岩木山噴火：1793（寛政5.2月）年 ・相馬藩「武家法会」「百姓法会」「町人法会」発布：1793（寛政5）年 ・雷神社（浪江町蓬原）別当觀音寺：1794（寛政6）年 ・龜崎社（相馬市中野）24代忍胤の霊を祀る：1795（寛政7）年 ・東照権現（相馬市小泉）再興、別当和正院：1795（寛政7）年 ・神明宮（相馬市百瀬）修復、別当吉祥院：1795（寛政7）年 ・東方院（相馬市磯部）：1795（寛政7）年 ・相馬中村で大火、多くの寺社が焼ける：1798（寛政10）年 ・八幡神社（南相馬市小高区片章）造営：1800（寛政12）年 ・慈眼寺（南相馬市鹿島区浮田）岡和田（鹿島区）に移転：1800（寛政12）年
--

2	5	代	・	祥	嵐
---	---	---	---	---	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本居宣長没：1801（享和元）年</li> <li>・蝦夷参行（のちの蝦夷参行）設置：1802（享和2）年</li> <li>・江戸で徳政が流行：1802（享和2.3月）年</li> <li>・摂津、河内、関東で洪水：1802（享和2.7月）年</li> <li>●左震で地震M6.5-7.0：1802（享和2.11.15）年#135</li> <li>・十返舎一九「東海道中膝栗毛」刊行始まる：1802（享和2）年</li> <li>・江戸で徳政が流行：1802（享和3.3月）年</li> <li>・全国、サボレオノ皇朝即位：1803年</li> <li>●泉州地震M7.0：1804（文化元.6.4）年#136</li> <li>・ロシア使節レザノフ、長崎に来航：1804（文化元）年</li> <li>・江戸で旱魃：1805（文化2）年</li> <li>・江戸大火（内堀火事）：1806（文化3.3.4）年「雑事記」</li> <li>・島原藩、天草キリシタン参軍：1806（文化3）年「深津世記」</li> <li>・フエートン号事件：1808（文化5）年</li> <li>・江戸強盗岩に砲台修築：1808（文化5）年</li> <li>・関東で暴風雨：1809（文化6.8月）年</li> <li>・前編：1810（文化7）年</li> <li>・「大日本史」紀伝、朝廷に献上：1810（文化7）年「近衛事記」</li> <li>・京都、泉喜和院御用掛設置：1811（文化8）年</li> <li>・本居宣長「三才圖會」刊行：1812（文化9）年</li> <li>●神奈川地震M6.8：1812（文化9.11.4）年#137</li> <li>・伴信友「延喜式神祇考要説」刊行：1813（文化10）年</li> <li>・杉田玄白「蘭学事始」：1815（文化12）年</li> <li>・畿内、東海道を暴風雨洪水：1816（文化13）年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香椎宮（福岡市）現本殿再建：1801（享和元）年「香椎宮記」</li> <li>・四天王寺、落雷で焼失：1801（享和元）年「各なし草」</li> <li>・幕府、富士講を禁ず：1802（享和2）年「撰要永久録」</li> <li>・住吉社（大阪市）焼失：1802（享和2）年「続徳川実紀」</li> <li>・若狭参神社（福井県小浜市）下社本殿造営：1802（享和2）年</li> <li>○享和年間、江戸・大坂で正月「七福神参り」が流行</li> <li>・幕府、初午祭での曝曬を禁ず：1804（享和4）年「徳川実紀」</li> <li>・幕府、江戸で新規華美な福祿祭を禁ず：1804（享和4）年「撰要永久録」</li> <li>・幕府、蝦夷地に天台・浄土・禪の寺院建立：1804（文化元）年</li> <li>・浅草寺・東本願寺など寺社80余りが焼ける。幕府、回向院に焼死者の供養を命ず</li> <li>・武蔵国水川神社（さいたま市）倒壊：1806（文化4）年</li> <li>・江戸富国八幡宮祭礼の出入で、永代橋崩落死者730名余：1807（文化4）年「夢の浮橋」</li> <li>・高野山で火事、中門・幡楼など焼ける：1809（文化6）年</li> <li>・伊勢神宮式年遷宮：1809（文化6）年「続徳川実紀」</li> <li>・住吉社（大阪市）本殿造替、遷宮を行う：1810（文化7）年「撰備奇観」</li> <li>・幕府、富士講を重ねて禁ず：1811（文化8）年</li> <li>・幕府、諸社修復の餉約命ず：1812（文化9）年</li> <li>・石清水八幡宮（京都府八幡宮）臨時祭再興（1432年以来）：1813（文化10）年「公卿補任」</li> <li>・若狭参神社（福井県小浜市）上社本殿造営：1813（文化10）年</li> <li>・幕府、武士の富士講参加を禁ず：1814（文化11）年</li> <li>・黒住宗忠、黒住教を立教：1814（文化11）年「黒住教書」</li> <li>・賀茂社臨時祭再興：1814（文化11）年</li> <li>・肥前日泰明神（佐賀市）、松原神社と改称：1817（文化14）年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○寛政年間</li> <li>・神明宮（南相馬市鹿島区南楠木）、阿弥陀如来（南相馬市原町区牛来）別当来迎院、不動院（原町区下太田）に合院、八雲大権現（南相馬市原町区牛来）再興、別当来迎院、三條神社・田神（南相馬市原町区牛来）再興、別当来迎院、仏徳寺（相馬市中村）1769（明和6年）の手田川洪水により絶院、田神・雷神・能野道出神・新山権現（南相馬市小高区下蒲）再興</li> <li>・25代浅胤、幕府に隠居願提出：1801（享和元）年</li> <li>・26代樹胤、相繼：1801（享和元）年</li> <li>○この頃相馬藩借財は30万両に及ぶ</li> <li>・聖観音堂（南相馬市原町区大瀬）再興：1803（享和2）年</li> <li>・金光寺（浪江市立野）竜光院跡に移転：1804（文化元）年</li> <li>・東照寺（相馬市磯部）再興：1807（文化4）年</li> <li>・竹駒神社（岩城県岩沼市）、正一位受与：1807（文化4）年</li> <li>・神明社、葉山権現（相馬市新沼）別当自在院：1809（文化6）年</li> <li>・26代樹胤、百姓一軒につき一石の無年貢地を与える：1809（文化6）年</li> <li>・同慶寺（南相馬市小高区小高）炎上：1810（文化7）年</li> <li>・岡田明神（茨城県筑波）石祠建立（御殿）：1810（文化7）年</li> <li>・勝蔵寺（南相馬市鹿島区南楠木）天保年間鹿島（鹿島区）に移転：1810（文化7）年</li> <li>○相馬藩、この頃から真宗門徒を中心に移民政策</li> <li>・26代樹胤、幕府に隠居願提出：1813（文化10）年</li> <li>・27代益胤相繼：1813（文化10）年</li> <li>・25代浅胤没：1816（文化13）年</li> <li>・27代益胤、財政改革「文化の御藏法」：1817（文化14）年～</li> </ul>

○文化年間	・常福寺（南相馬市原町区南新田）再興：1818（文化15）年
	○文化年間
○文化年間	常福寺（浪江町榎町）原町区南新田の同寺隠居寺として創建、山神・清瀬権現（南相馬市鹿島町福原）別当徳正院、八幡寺（南相馬市鹿島区福原）火災のため全焼、小池（鹿島区）の普門寺に合院、天神社（相馬市中村）、観音堂（相馬市栗津）
	・常陸一揆：1818（文政元）年
○文化年間	・黄船神社、八幡宮（相馬市塚部）再興：1818（文政元）年
	・皇大神の石神（南相馬市小高区小高・大井）：1819（文政2）年
○文化年間	・藤山山崎火：1821（文政4.3.29）年
	・石不動（相馬市成田）再興、別当若王寺：1821（文政4）年
○文化年間	・照光寺（相馬市日下石）再興：1821（文政4）年
	・長徳寺（相馬市日下石）巨観（相馬市）の積雲寺に合院：1821（文政4）年
○文化年間	・相馬藩校「尊経館」：1822（文政5）年
	・山神宮（相馬市山上）再興：1822（文政5）年
○文化年間	・祥雲寺（南相馬市鹿島区筋窪）常安寺に合院：1823（文政6）年
	・手長大明神（相馬市山上）再興：1823（文政6）年
○文化年間	・正西寺（相馬市中野）建立（浄土真宗移民促進のため）：1824（文政7）年
	・海蔵院（南相馬市小高区村上）塚原（小高区）の秀蘭院に合院：1824（文政7）年
○文化年間	・陸奥安達郡で大雨による土砂崩れ：1824（文政7.7月）年
	・正法寺（南相馬市原町区大甕）小浜（原町区）の元勳寺に合院：1825（文政8）年
○文化年間	・善法寺（南相馬市原町区堤谷）上太田（原町区）の岩屋寺に合院：1825（文政8）年
	・稲荷大明神（相馬市岩子）別当正伝院：1826（文政9）年
○文化年間	・常福寺（浪江町幾世橋）：1827（文政10）年
	・天照皇大神宮（荒野地区に伊勢神宮より分霊）：1828（文政11）年
○文化年間	・牛頭天王、乗山宮（相馬市本笑）再興、別当長和院：1828（文政11）年
	○文化年間
○文化年間	真徳寺（浪江町新成）室原（浪江町）の観音寺に合院、長寿院（南相馬市鹿島区北右田）上海老（鹿島区）の玉蔵寺に合院、木船明神（南相馬市鹿島区岸崎）高松より移転、高尾寺（相馬市中村）真徳寺に合院、山下（鹿島区）より移転、大聖院（相馬市中村）、薬師寺（浪江町柳城）大聖寺に合院、八幡宮（南相馬市鹿島区永渡）

○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・浅草寺法善院から出火
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・久留米藩邸に水天宮勧進（1872年現在地（東京中央区）に遷座）：1818（文政元）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・東照宮五重塔再建：1818（文政元）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・鶴岡八幡宮、火災炎上：1819（文政2）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・鶴岡八幡宮、全焼：1821（文政4）年「続徳川実紀」
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・江戸で風影が大流行：1821（文政4.2月）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・西国でコレラ流行：1822（文政5）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・「続徳川実紀」刊行：1822（文政5）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・「古事記伝」出版完了：1822（文政5）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・小田原藩、二宮尊徳を参用：1822（文政5）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・本国、キリスト教布教：1822年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・早稲：1823（文政6）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・麻修旅行：1824（文政7）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・関東、東北で大風雨：1824（文政7.8月）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・奥国麻打村火：1825（文政8）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・会求正志斎「新編」：1825年（文政8）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・阿蘇山噴火：1826（文政9.9月）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・頼山陽「日本外史」：1827（文政10）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・悲田で賑言流行：1827（文政10.5月）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・各地で大風雨、洪水：1828（文政11.6～7月）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・越後三条地震6.9：1828（文政11.11.12）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・江戸で火（江戸の火勢）：1829（文政12）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・フランス7月革命：1830年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・「新編武蔵風土記略」：1830（文政13）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・「お茶あり」大流行、45万人が参宮：1830年（文政13）年
○文化年間、江戸の町々に富士講広まる	・「御陰参籠記」

・阿蘇山前落：1830（天保元. 7月）年 ・浅間山噴火：1831（天保2. 7月）年 ・天保の大飢饉：1832（天保3）～1836（天保7）年 ・江戸で徳川幕府：1832（天保3. 9月）年 ・奥羽大洪水、関東大飢饉：1833（天保4）年 ・江戸で打ちこわし多発：1833（天保4）年 ●羽前、羽後で地震M7. 25：1833（天保 8. 10. 26）年#140 ●石狩地域地震M6. 4：1834（天保5. 1. 1）年 「天保雜記」#141	・虚空藏（相馬市和田）別当長和院：1831（天保2）年 ・滝場大明神（相馬市岩子）再興、竜泉寺境内：1832（天 保3）年 ・八幡宮（南相馬市小高区南鳩原）：1834（天保5）年 ・塩釜明神（相馬市鹿島区北海老）：1834（天保5）年 ・出羽で疫病流行：1834（天保5）年 ●山合M7. 0：1835年7. 20 死者多数、相馬城崩壊、津波あり、岩手県鹿角町で石垣 （天保6. 6. 25）#142 ・天保の大飢饉：相馬で農民の9%飢死、4%逃散 ・27代益風、幕府に隠居願提出：1835（天保6）年 ・大神宮（南相馬市原町区長野）：1835（天保6）年 ・28代元胤、幕府へ大阪表買米2千石願い提出：1836（天保7）年 ・相馬藩、昨年の1/10（4, 348俵）の凶作：1836（天保7）年 ・28代元胤、赦免令発布：1836（天保7）年 ・津軽藩、天保8年餓死者4万5千人余り ・天保の大飢饉：いわき地方の餓死者2000～3000人 ・26代樹胤没：1839（天保10）年 ・石上大明神（南相馬市原町区石神）野火により焼失し翌 年再興、別当西福寺：1839（天保10）年 ・真光寺（相馬市立谷）：1840（天保11）年 ・塩釜大明神社（相馬市岩子）修復：1841（天保12）年 ・葉山権現、牛頭天王、田神（相馬市南飯淵）再興、別当 知善院：1841（天保12）年 ・貞雲寺（相馬市富沢）立合（相馬市）の日庭寺に合院： 1841（天保12）年 ○天保年間 白山権現（相馬市岩子）再興、別当知善院、森徳院（相馬市小野）万徳院に合院、慈伝院（南相馬市 鹿島区塩崎）江津（鹿島区）の観音寺へ合院、若王寺（相馬市成田）万徳院に合院、金毘羅大権現 （相馬市中村）、金竜寺（相馬市柏崎）磯部（相馬市）の常林寺と合院し金竜寺と称す、羽山権現 （浪江町柳屋）別当正徳院、飯成天神社（浪江町柳屋） ・岩木山噴火：1844（弘化元. 2. 20）年 ・27代益風没：1845（弘化2）年 ・相馬藩「二宮仕法」導入、相馬市坪田・相馬市成田から開始：1845（弘化2）年～
・琉球王府、首里に孔子廟竣工：1837（天保8）年「首里新 建聖廟碑文」 ・天理興教：1837（天保8）年「教派神道圖書」 ・県立翁書社（県居神社の初め、静岡県松本市）：1839 （天保10）年 ・幕府、おかげ踊、稲荷踊、太子講を禁ず：1841（天保 12）年（徳川実紀） ・幕府、寺社祭祀で芝居興行禁ず：1841（天保12）年 ・幕府、江戸市中で俗人の山伏修行禁ず：1842（天保13） 年（徳川実紀） ・水戸藩、神仏分離を断行し、神道中心の政策：1843（天 保14）年「水戸藩史料」 ・高野山加修庵没：1843（天保14）年 ・阿蘇社（熊本県阿蘇市）本殿造営：1843（天保14）年 ・水戸藩、氏子帳作成を命ず：1844（天保15）年 ・幕府、水戸藩の宗教政策批判：1844（天保15）年 ・水戸藩、石仏、堂、祠を破壊：1845（弘化2）年 ・言教師、琉球上陸（プロテスタント布教の初め）：1846 （弘化3）年	・阿蘇山前落：1830（天保元. 7月）年 ・浅間山噴火：1831（天保2. 7月）年 ・天保の大飢饉：1832（天保3）～1836（天保7）年 ・江戸で徳川幕府：1832（天保3. 9月）年 ・奥羽大洪水、関東大飢饉：1833（天保4）年 ・江戸で打ちこわし多発：1833（天保4）年 ●羽前、羽後で地震M7. 25：1833（天保 8. 10. 26）年#140 ●石狩地域地震M6. 4：1834（天保5. 1. 1）年 「天保雜記」#141 ・諸国で飢饉流行：1835（天保6）年 ・諸国で大洪水：1836（天保7. 8月）年 ・甲斐新田郡で田中騒動（一揆）：1836（天保7）年 ・12代将和家康：1837（天保8）年 ・大塩平八郎の乱、モリソン事件：1837（天保8）年 ・大坂で大火（大塩焼）：1837（天保8）年 ●別路で地震M7. 0：1839（天保10. 3. 18）年 #143 ・東北地方で冷害・長雨：1839（天保10）年 ・並社の乱：1839（天保10）年 ・アヘン戦争開戦：1840年 ・水野忠邦、文政の改革：1841（天保12）年 ・「御触書天保創成」：1841（天保12）年 ・水戸「弘道館」設置：1841（天保12）年 ・後約倉：1842（天保13）年 ●土砂沖地地震M7. 5：1843（天保14. 3. 26）年 「松浦実記」#144 ・湯島聖堂を「学問所」と改称：1843（天保14）年 ・オランダ国王、開国を勧告：1844（天保15）年 ・幕府、オランダ国王の開国勧告を拒否：1845（弘化2）年 ・孝明天皇即位、船政の強化を求める：1846（弘化3）年

アメリカ東インド艦隊ビッドル、浦賀来航：1846（弘化3）年 ・ 諸国で長用：1846（弘化3前6～9月）年 ● <b>善光寺地震</b> M7.4：1847（弘化4.3.24）年#145 「武江年表」：1848（嘉永2）年 京阪で洪水：1848（嘉永元.8月）年 「大日本史」紀伝附行：1849（嘉永2）年「水戸修史事録」 「徳川実記」：1849（嘉永2）年 江戸大火：1850（嘉永3.2.9）年 尾張で暴風雨：1850（嘉永3.7～8月）年 近畿で風水害：1852（嘉永5）年 ・ 「大日本史」紀伝を朝廷・幕府に献上：1852（嘉永5）年 ロシア艦、下田に来航：1852（嘉永5）年 ペリー来航：1853（嘉永6）年 13代将軍家定：1853（嘉永6）年 ・ ベリー・浦賀に母来航：1854（嘉永7）年 ・ 日米和親条約締結：1854（嘉永7）年 ・ 京都で大火：1854（嘉永7）年 ・ 坂井で大火：1854（嘉永7）年 ● <b>伊賀上野地震</b> M7.9：1854（嘉永7.6.15）年 #146 ・ ロシア艦ディアナ号、突如大阪湾来航：1854（嘉永7）年 ・ 幕府、日清軍を日本国総艦船に指定：1854（嘉永7）年「続日本実記」 ● <b>政東海地震</b> M6.4：1854（嘉永7.11.4）年 #147 ● <b>安政南海地震（稲村の火）</b> M8.4：1854（嘉永7.11.5）年#148 ●伊予、豊後で地震M7.3-7.5：1854（嘉永7.11.7）年#149 ・ 江戸で風邪（あまりか風邪）流行：1854（嘉永7）年 ・ 洋学所設置：1855（安政2）年 ● <b>豊州灘で地震</b> M7.0-7.5：1855（安政2.9.28）年#151 ● <b>安政江戸地震</b> M7.0：1855（安政2.10.2）年 #152 ○この頃、鯉絵出版盛ん ・ 「お陰参り」盛ん：1855（安政2）年 ・ 長崎海軍伝習所開設：1855（安政2）年 ・ 歌川国重「名所江戸百景」刊行始まる：1856（安政3）年	・ 光光寺開帳参拝者が多数死亡「弘化4年末年三月大地震之儀二付御書」 ・ 伊勢神宮内宮、外宮遷宮：1849（嘉永2）年 ・ 神社50、寺密120などが類集 ・ 朝廷、異国船渡来により寺社に祈禱を命ず：1850（嘉永3）年「橋本実藏日記」 ・ 江戸深川八幡宮、熊野夫須美神社（熊野那智大社）再建：1851（嘉永4）年 ・ 朝廷、異国船渡来により寺社に祈禱を命ず：1853（嘉永6）年 ・ 0）年「三采実方手録」 ・ 石清水八幡宮放生会で、国家安寧祈願：1853（嘉永6）年「公卿補任」 ・ 孝明天皇、ロシア船出沒を受け、寺社に祈禱命ず：1854（嘉永7）年 ・ 東海地震により、三島社等が倒壊「甲寅諸国大震紀聞」 ・ 朝廷、全国寺院の梵鐘供出、大鐘等に改鑄する太政官符発布：1854（安政元）年「橋本実藏日記」 ・ 伊賀上野地震（1854年）犠牲者供養のため法華経供養塔建立（伊賀上野）：1855（安政2）年 ・ 大阪木津川河口、安政東南海地震（1854年）慰霊碑「大地震画川口津浪記」建立：1855（安政2）年 ・ 幕府、窮民救済のための小屋を建てる：1855（安政2）年 ・ 春日神社（徳島県板野郡）、安政南海地震（1854年）「歌漁碑」建立：1856（安政3）年 ・ 八幡神社（徳島県阿南市）、安政南海地震（1854年）「常夜灯台石」建立：1856（安政3）年	・ 葉山神、田神（相馬市岩子）再興、別当滝泉寺：1848（嘉永元）年 ・ 陸奥一揆：1853（嘉永6）年	○嘉永年間 真山寺（相馬市立谷）、証覺院（相馬市立谷）もと中村（相馬市）にあり ● <b>盛岡</b> M7.3：1855年9.13 御訂で盛岡の石田、石高、市電節市る（安政2.8.3）#150 ・ 片寄平藏、弥勘次にて石炭の露頭を発見（常磐炭鉱の始まり）：1855（安政2）年 ● <b>安政江戸沖地震</b> M7.5：1855年11.11（安政3.7.23）#153 ・ 三浦及び北海道に津波、死者29人、三浦神北部の所有地没。南部藩で被災98、阿藤106、湯死28、八戸藩で死に3。余震が多かった。
---	---	---	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>米田総領事ハリス、下田玉泉寺を教習所とす。1856 (安政3) 年「日本滞在記」</li> <li>江戸で入風用：1856 (安政3.8月) 年</li> <li>船政船ヶ房増大：1856 (安政3.8.20) 年</li> <li>船政、幕府開設：1857 (安政4) 年「藩政調査起程考」</li> <li>幕府開設：1857 (安政4) 年</li> <li>米田総領事ハリス、将軍に入城謁見提出：1857 (安政4) 年</li> <li>14代将軍家茂：1858 (安政5) 年</li> <li>コレラ流行、死者3万人：1858 (安政5) 年</li> <li>●東北地震M7.0-7.1：1858 (安政5.2.26) 年</li> <li>出154</li> <li>京都大火：1858 (安政5.6.4) 年「東本願寺上座問日記」</li> <li>日米修好通商条約調印：1858 (安政5) 年</li> <li>船政入城：1858 (安政5) 年</li> <li>船政入城、蘭学塾開設義塾開設 (東京塾地)：1858 (安政5) 年</li> <li>入城入城、高橋東洋寺を宣教師とす：1859 (安政6) 年「入城入城」</li> <li>米田総領事ハリス、将軍に謁見提出：1859 (安政6) 年「米田大使館文書」</li> <li>フランス総領事来日、三田藩を所領とする：1859 (安政6) 年「柳家文書」</li> <li>松田内外の表：1860 (安政7) 年</li> <li>種痘館を種痘所 (種痘館) に改称：1860 (安政7) 年</li> <li>平藩主 安藤正正、老中・遊米使節派遣：1860 (万延元) 年</li> <li>松田内外の表：1860 (万延元2月) 年</li> <li>水戸藩主、英米公使館 (東洋館) を襲撃：1861 (文久元) 年「水戸藩文書」</li> <li>南北戦争：1861～65年</li> <li>坂下町の表、安藤正正老中職免：1862 (文久2) 年</li> <li>船政、幕府開設を評議所に改称：1862 (文久2) 年「続徳川史記」</li> <li>第二次東洋戦争事件、生麦事件：1862 (文久2) 年</li> <li>江戸大火：1863 (文久3.3.16) 年「武江年表」</li> <li>船政、洋書館を開設所、西洋医学所を医学所に改称：1863 (文久3) 年</li> <li>大阪で大火 (新町焼け)：1863 (文久3.11.21) 年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安政大地震 (1855年) 横死者供養塔」建立 (両国・回向院)：1857 (安政4) 年</li> <li>・幕府、絵踏を廃止する：1857 (安政4) 年</li> <li>・大樹寺 (愛知県岡崎市) 再建：1857 (安政4) 年「御再建日記」</li> <li>・京都大火で、東本願寺願焼</li> <li>・元興寺 (奈良市) 五重塔・観音堂焼失：1859 (安政6) 年</li> <li>・金光教開教：1859 (安政6) 年</li> <li>○安政年間、都農神社 (宮崎県児湯郡) 社殿再建</li> <li>・富士山登山、男女ともに8月30日まで許可：1860 (万延元) 年「武江年表」</li> <li>・宇佐八幡宮本殿造替：1861 (文久元) 年「小山田家文書」</li> <li>・横濱居留地に天主堂竣工 (宣教師活の最初の聖堂)：1861 (文久元) 年「横濱開港見聞記」</li> <li>・蛭子神社 (徳島市)、安政南海地震 (1854年) 石碑「百庚石」建立：1861 (文久元) 年</li> <li>・浅川千光寺 (徳島県海部郡)、安政南海地震 (1854年) 編纂「大地震津浪記」奉納：1861 (文久元) 年</li> <li>・宗忠神社 (京都) 建立：1862 (文久2) 年</li> <li>・志和岐 (徳島県海部郡)、安政南海地震 (1854年) 災禍」建立：1862 (文久2) 年</li> <li>・宇佐八幡宮 (大分県宇佐市) 本殿再建：1862 (文久2) 年</li> <li>・長崎聖公会、教会建設：1862 (文久2) 年</li> <li>・誠照寺 (福井県鯖江) 焼ける：1862 (文久2) 年</li> <li>・孝明天皇、攘夷祈願のため寛政社行幸：1863 (文久3) 年「押小路番子日記」</li> <li>・津島天神などが焼ける</li> <li>・孝明天皇、石清水八幡宮に攘夷祈願：1863 (文久3) 年「正行院文書」</li> <li>・西館、聖ハリストス聖堂竣工：1863 (文久3) 年「函館市史年表草稿」</li> <li>・横浜、聖公会会堂 (横浜クライストチャーチ) 設立：1863 (文久3) 年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『奥相志』編纂開始：1857 (安政4) 年</li> <li>●東北地方太平洋岸M7.0～7.5：1858年7.8 (安政5.5.28) #155</li> <li>・地藏尊 (南相馬市原町区菅浜) 別当成就院：1859 (安政6) 年</li> <li>○安政年間 白龍明神・小田原山神・金台原水神 (相馬市山上) 修復 堂 (相馬市山上) 修復</li> <li>●宮城風沖M7.3：1861年 津波、家庭御殿、死者あり。 10.21 (文久元.9.18) #156</li> <li>・28代元胤、幕府～殿裏地の開拓と海防の重要性建白：1862 (文久2) 年</li> <li>・28代元胤、将軍家茂上洛の供をする：1863 (文久3) 年</li> </ul>
---	--	--

[illegible]

